

# 生研 ニュース

IIS NEWS  
No.209  
2026.4

●基礎系部門  
教授

中埜 良昭

今回、組石造の実験試験体の前で表紙を飾っていただいたのは、2027年3月に定年退職を迎えられる、基礎系部門の中埜良昭教授です。中埜先生は1989年に生産技術研究所の講師に着任され、長きにわたり一貫して建築耐震工学の研究に取り組まれてきました。その主な手法は、地震等の被害調査、載荷実験、数値解析の三本柱で、どれが欠いてもならないとのこと。社会実装されたご研究は多岐にわたり、中でも建築物の耐震診断・耐震補強や耐津波設計法に関するご研究は、それぞれ1995年阪神・淡路大震災、2011年東北地方太平洋沖地震を受けて社会的に着目される前から取り組み、それによって大災害の有事における迅速かつ効果的な対応ができたそうです。その他にも学会の要職や官公庁の有識者会議、SATREPSなど大型研究プロジェクトのPI、世界最大規模の震動台「E-ディフェンス」を所管する防

災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センターのセンター長などを歴任し、地震防災に多大なご貢献をされてきました。

本所においては、六本木から駒場へのキャンパス移転、西千葉から柏への実験所移転の際に長期にわたる調整を含めてご尽力され、2012年度からは所長として運営の舵取りをされました。これらのご経験を踏まえ、本所に期待することとしては、研究者間や事務部を含めた横のつながりをぜひ大切にして、意識的に継続して欲しいとのこと。簡単に隣人との垣根を越えることができ、構成員が各々自由にアクティブなのに、大事な時は一体となれる。このような本所の環境は大変貴重なものだとおっしゃります。ぜひこのDNAを引き継いでいきたいとあらためて感じました。

(広報室 浅井 竜也)

IIS  
TODAY

# CONTENTS

## REPORTS

### November

- 3 日本航空 (JAL) × 東京大学生産技術研究所～飛行機ワークショップ開催 10 周年記念対談開催！～  
4 The 4th International Symposium on One Health, One World 開催報告  
5 第 1 回インド生研同窓会を開催

### December

- 6 ニューサウスウェールズ大学およびメルボルン大学訪問報告  
7 UTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Award 2025 授賞式を開催  
8 第 8 回海底ケーブルの科学利用と関連技術に関する将来展望ワークショップ開催  
9 第 6 回 次世代育成教育フォーラム「STEAM 教育を通じた『主体的・対話的で深い学び』の深化」を開催  
10 東京大学生産技術研究所と飯山市が連携協力協定を締結

### January

- 11 第 13 回貴金属シンポジウム「貴金属の製錬・リサイクル技術の最前線」の開催  
12 柏の葉地区で特定自動運行 (自動運転レベル 4) の運行開始～記者発表会および出発式～

### February

- 13 長野市 生研活動拠点「シナジーベース」で学生セミナー J-GMS 寺子屋セミナー開催  
14 2025 年度 CIRMM 大学院修了者成果発表会を開催  
15 企画運営室 神奈川県立産業技術総合研究所 (KISTEC) 訪問  
16 柏キャンパスサイエンスキャンプ 生研コース 開催  
17 UTmobl フォーラムを開催  
18 最先端マテリアル研究公開@東大駒場リサーチキャンパスを開催

### March

- 19 陸前高田市との先端技術による地方創生に関する連携協力協定締結式を開催  
20 令和 7 年度 退職教員記念講演会  
21 令和 7 年度第 3 回生研サロン開催報告  
22 第 120 回レアメタル研究会「鉄と非鉄とレアメタル」の開催  
23 ダイニングラボ活動報告

## PRESS RELEASE

### December

- 24 株式会社アズパートナーズと東京大学 生産技術研究所 DLX デザインラボが共同研究  
「孤独を見つめ、つながりをデザインする」—— プロジェクト Collins ——  
24 大規模言語モデルで専門家のように材料空間を探索  
—— 自律性と解釈性を備えた無機材料設計のための AI エージェントを開発 ——

### January

- 24 皮膚が光って健康状態をお知らせ—— 表皮幹細胞を用いた生体バイオマーカーの連続的監視 ——  
25 ニホンジカの生息域と人との接触時リスク評価  
25 東京都市圏の公道で初\*！ 柏の葉地区で特定自動運行 (自動運転レベル 4) の運行開始  
25 「自律型無人探査機 (AUV) の利用実証試験」にて AUV を港から発進させ、海底マッピングと人工物の精査に成功

### February

- 26 可視光照射で長く光る亜鉛化合物を開発—— 「空 (から)」の軌道を利用し、亜鉛に可視光機能を付与 ——  
26 「貼る」新型コロナウイルス感染症ワクチン  
—— 自己接種や常温輸送を目指すマイクロニードルワクチンパッチ ——  
26 「水の同位体」を用いて地球の水循環を精密に可視化  
—— 国際モデル比較プロジェクト WisoMIP による世界初の標準化解析 ——

### March

- 27 パンデミックを止めるために他者への強い配慮は必要ない  
—— 感染時の自己隔離は自然な生存戦略であることを数理モデルが解明 ——  
27 「見えない入力」から情報の流れを読み解く—— デュアルレポーター法を用いた細菌走化性の情報処理の解明 ——  
27 東京大学 生産技術研究所と東京大学 大学院農学生命科学研究科及び陸前高田市が連携協力協定を締結

## VISITS

## PERSONNEL

## AWARDS

## INFORMATION

## SANPSHOTS

## CAMPAS GUIDE

## PROMENADE

## FRONTIER

メタ光学：人工構造でひらく、新しい光物理と光機能

(基礎系部門 准教授 森竹 勇斗)

## 日本航空（JAL）×東京大学生産技術研究所 ～飛行機ワークショップ開催10周年記念対談開催！～

本所 次世代育成オフィス（ONG）は、日本航空株式会社（JAL）と2016年より連携し、全国の中高生を対象に「飛行機ワークショップ」を共同開催してきた。本プログラムは、最先端の技術が随所に詰まった「飛行機」を教材に、講義や実習、現場見学を通じて航空分野に触れる機会を提供し、将来の航空技術、ひいては社会の発展に貢献する人材の育成を目的に真摯に取り組んできたものである。この構想を発案したのが、当時 JAL 整備本部長であった JAL 赤坂 祐二 取締役会長であり、その想いを受け止め、産学の共創を後押ししたのが、当時の本所 所長であった本学 藤井 輝夫 総長である。そして、このワークショップが10周年を迎える節目を記念し、2025年11月17日（月）、羽田の JAL メインテナンスセンターにて、両氏による10周年記念対談が実施され、産学連携の意義や次世代育成の未来像について議論された。

対談に先立ち、司会の本所 次世代育成オフィス 川越 至桜 室員・准教授から、本ワークショップが航空機整備工場での実体験と、大学教員による講義やグループワークを組み合わせた体験型プログラムであり、産学連携による次世代育成を目的に始まったことが紹介された。それを受け、両氏は10年前のスタート時を振り返り、実際に見て触れて体験することの重要性とその価値、さらに講義や実習を通じて考え、学ぶことの楽しさが話し合われた。また、赤坂会長は、JAL が大切にしている考え方である「現地・現物・現人」に基づき、整備工場でのリアルな体験が参加者に深い学びをもたらすと強調し、「デジタル時代だからこそ、リアルな体験が貴重である」と、本ワークショップの価値について語られた。藤井総長も「教室の外での学びが創造力を育む」と指摘し、産学連携の

意義を再確認した。また、両氏は、産学連携の役割が「技術開発」から「人材育成」へと広がっている点で一致し、赤坂会長は「企業と大学が一緒になって若者を育てる時代であり、キャリア形成に柔軟性を持たせ、学び直しの機会を増やすことが重要」と語られ、藤井総長も深い共感を示しつつ、「多様な環境での経験を通じて、創造力や構想力を育む教育が必要」と応じた。

議論は、次世代育成に欠かせない STEAM 教育にも及び、赤坂会長は「AI 時代を迎える中で、人間ならではの役割を育む教育が必要だ」と語られ、単なる幅広い知識だけでなく「創造性や倫理観、道徳心を STEAM 教育の柱に据えるべきだ」と強調された。また、藤井総長も「現実社会の課題は、単純な正解があるわけではない。だからこそ、広い視野で探究し、経験を通じて、構想力や様々な知識をコーディネートする力を養うことが重要」と述べ、STEAM 教育の本質を「知識だけでなく、人間としての基盤を育むこと」と位置づけた。

最後に、両氏は若い世代に向けて「好奇心を大切に」「わからないことを楽しむ」ことを呼びかけ、「学びは一生続くもの。挑戦を恐れず、興味のあることに全力を注いでほしい」とエールを送られた。

ONG と JAL は、これからも本ワークショップを通して STEAM 教育を推進し、子どもたちに「自分・日本・世界・地球の未来」を考える機会を提供していく予定である。そして、「空のように広く、高く」、次世代を育てる場として進化し、発展させながら、社会をリードする人材の育成に貢献していく所存である。

（次世代育成オフィス 室員・教授 川越 至桜、  
学術専門職員 上田 史恵）



メンテナンスセンターにて



赤坂取締役会長



藤井総長



対談の様子

## The 4th International Symposium on One Health, One World 開催報告

本学 ワンヘルス・ワンワールド連携研究機構 (OHOW) は、2025年11月20日 (木) から22日 (土) にかけて、インドのルールキー (デリーから北東 180km に位置する学術都市) にて「The 4th International Symposium on One Health, One World」を成功裏に開催しました。シンポジウムは、タイ、バングラデシュ、マレーシアでの過去3回の開催を経て、今回初めてインドで開催され、世界各地から集まった研究者や専門家が、One Health の課題解決に向けた議論を展開しました。

シンポジウムには、総勢 337 名にご参加いただき、参加者の国籍は、開催国であるインドからの 302 名を筆頭に、日本 (23 名)、ネパール (3 名)、ミャンマー (2 名)、ポルトガル (2 名) など、合計 10 の国と地域 (バングラデシュ、ニュージーランド、台湾、タイ、インドネシアから各 1 名) に及び、国際色豊かな場となりました。

シンポジウムでは、総計 142 名の発表者によって多岐にわたる研究成果が紹介されました。具体的には、本所 目黒 公郎 教授ら 8 名による基調講演、本所 南 豪 准教授、ネパールの Dr. Ramesh Guragain、タイ王国のアジア工科大学院 (Asian Institute of Technology: AIT) Prof. Pennung Warnitchai、ミャンマー地震工学会 Saw Htwe Zaw 副会長ら 10 名による特別講演、これに加え、98 名の口頭発表と 26 名の E-poster 発表を行いました。

シンポジウムは、One Health が対象とする「ヒト・動物・地球環境から社会が直面している様々なリスク」について一堂が理解するとともに、これらに対応するために関連学術分野が総合的・協調的に発展するための有

意義な議論が行われました。

若手研究者や学生の優れた研究を奨励するため、「Best Oral Presentation Award」が授与されました。栄えある第 1 位は室蘭工業大学 泉 佑太 准教授、第 2 位はインドの IIT Madras に所属する学生 Prashant Anant Bansode さん、第 3 位はインドの ACSIR-CBRI, Roorkee に所属する学生の Ashish Kapoor さんと、本学 先端科学技術研究センター 廣井 悠 研究室 井澤 佳織 特任助教が受賞しました。

プログラムは学際的な内容を網羅し、シンポジウム期間中には、関連分野の最新技術や取り組みを紹介する 22 の展示ブースも設けられ、本所もブースを出展しました。

また、シンポジウム開催に先立ち、One World Hazards Workshop, Student Competitions と題して若手研究者向けにプレカンファレンス・ワークショップを実施しました。初日のプログラム「Are you ready for the next pandemic?」には 5 チーム 20 名、翌日のプログラム「Seismic Resistance Building Competition, Bridge Building Competition」には 7 チーム 25 名が参加し、4 チームが表彰されました (優秀防災ポスター 2 チーム、振動台で壊れなかった 1 チームと橋が重さに耐えた 1 チーム)。

OHOW は、今後もグローバルな課題解決に貢献する場を提供してまいります。次回は 2026 年 11 月にフィリピンでの開催を予定しております。

(ワンヘルス・ワンワールド連携研究機構  
機構長・教授 竹内 渉)



目黒教授による基調講演の様子

南准教授による特別講演の様子

Prof. Warnitchai による特別講演の様子

Zaw 副会長による特別講演の様子

生研展示ブース

Best Oral Presentation Award の受賞者  
左から、本所 竹内 渉 教授、目黒教授、井澤特任助教、Kapoor さん、泉准教授

集合写真

## 第1回インド生研同窓会を開催

2025年11月21日（金）、インドのルールキー（デリーから北東180kmに位置する学術都市）にあるCSIR-CBRI（Central Building Research Institute）にて、記念すべき第1回インド生研同窓会総会を開催しました。本所 年吉 洋 所長によるオンラインでの開催挨拶で幕を開け、続いて、CSIR-CBRI 所長であり、初代インド支部会長に就任した Pradeep Kumar 教授（本所 目黒 公郎 研究室出身）による挨拶、同窓会幹事である本所 目黒 公郎 教授によるインド支部設立の趣旨および経緯の説明が行われました。また、本所 竹内 渉 教授より今後の活動方針についての展望が語られました。その後、参加者より近況報告やメッセージが述べられました。総会終了後、本学 ワンヘルス・ワンワールド連携研究機構（OHOW）が同地域にて開催していた「The 4th International Symposium on One Health, One World (OHOW2025)」の懇親会に合流し、親睦

を深めました。

同窓会のプレイベントとして、18日（火）に IIT Roorkee（The Indian Institute of Technology Roorkee：インド工科大学ルールキー校）を訪問し、同大学の Misra Prakhar 助教（本所 竹内 渉 研究室出身）の案内で、リモートセンシング技術に関する歴史的な資料や機器が展示された資料室等を見学し、インドにおける当該分野の発展の歴史に触れる貴重な機会を得ました。

22日（土）は、OHOW2025 のテクニカルツアーへ参加し、Haridwarar（ハリドワール）の土砂崩れ現場や Rishikeshi（リシケシ）での洪水対策の取組など、現地の防災対策の視察を行い課題と対策について知見を深めました。

（人間・社会系部門 教授 竹内 渉）



総会の様子



集合写真



懇親会場にて  
左の写真、1人おいて、Kumar 教授、目黒教授



IIT Roorkee の資料室



テクニカルツアー集合写真



Rishikeshi のガンジス川の水位計



ガンジス川から見る Haridwarar の土砂崩れ

## ニューサウスウェールズ大学およびメルボルン大学訪問報告

2025年12月、本所 年吉 洋 所長と大口 敬 副所長を含む一行は、研究交流の一環としてオーストラリアを訪れました。

12月1日（月）、年吉所長、大口副所長、三宅 陽一郎 特任教授、大石 岳史 准教授、菅野 裕介 准教授、川添 善行 准教授、五十嵐 征美 経理課長、有馬 みき 高度学術員、野田 紗耶夏 一般職員はシドニーのニューサウスウェールズ大学（UNSW）を訪問しました。UNSWは、1843年創設のThe Sydney Mechanics Instituteを前身とし、1949年にニューサウスウェールズ州政府と連邦政府の共同支援により設立された公立大学で、オーストラリアの名門大学群「Group of Eight」の一員です。今回の訪問は、2024年10月にColin Grant 副学長が本所を訪れたこと、さらに2025年9月にAttila Brungs 学長と本学 藤井 輝夫 総長との面会に年吉所長と川添准教授が同席したことなど、一連の交流が契機となり実現しました。訪問の冒頭では、Grant 副学長より歓迎の挨拶が述べられ、続いて年吉所長が挨拶しました。その後、UNSWの教員12名とともに、Integrated Urban Environments および Embedded Intelligence and Robotics という二つのテーマに分かれて研究発表とディスカッションを行いました。午後にはTravel Choice Simulation Laboratory (TRACSLab) や Robotic Fabrication Lab 等の研究施設の視察も実施しました。

続いて、用務のため帰国した年吉所長を除く一行は

メルボルンへ移動し、2日（火）に在メルボルン日本国総領事館を表敬訪問、3日（水）にメルボルン大学を訪問しました。1853年設立のメルボルン大学は、研究・教育の双方で国内トップクラスの評価を誇る名門大学です。2025年3月にはMark Cassidy 副学長が本学を来訪した際に柏キャンパスの本所施設を視察、同年10月にはAlastair Sloan 研究連携担当副学長が来所して年吉所長、大口副所長と面会するなど、交流が着実に進んだ結果、今回の訪問に至りました。なお、大口副所長は同大学のMajid Sarvi 教授と長年にわたり研究交流を続けています。メルボルン大学では、キャンパスツアーおよび工学・IT学部の教員10名との懇談の後、研究・産学連携本部が主催する懇談会に参加しました。懇談会では、Cassidy 副学長、Sloan 研究連携担当副学長をはじめ、工学・IT学部、医学・歯学・健康科学部、建築・建設・計画学部の教員と幅広く交流し意見交換を行いました。さらに、建築・建設・計画学部の卒業制作展示やDigital Lab、インキュベーション拠点Melbourne Connectを視察しました。

いずれの大学も緑豊かで開放的な雰囲気に満ちており、研究・教育に向けられた活気あるエネルギーが随所に感じられました。今回の訪問を機に、研究者間・学生間の連携が今後さらに深まることが期待されます。

（国際・産学連携室 高度学術員 有馬 みき）



UNSW Grant 副学長と年吉所長



UNSW キャンパスにて  
左から、三宅特任教授、川添准教授、大口副所長、UNSW Vinayak Dixit 副学長補佐、年吉所長、菅野准教授、大石准教授



UNSW 教員との集合写真



大口副所長と  
メルボルン大学 Cassidy 副学長



メルボルン大学 工学・IT学部での懇談の様子



メルボルン大学キャンパスにて

## UTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Award 2025授賞式を開催

2025年12月4日(木)、2025年度 UTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Award の授賞式を開催しました。本所では、研究を深めると同時に、社会とのつながりを意識した取り組みを重視してきました。本アワードは、そうした学生たちの挑戦を後押しするもので、産業界との連携研究、地域社会との協働や社会実装、国際的な共同研究や交流、社会や他の学術機関との接点を持つ基礎研究、さらには地球規模の課題解決に資する研究など、「生研らしさ」が発揮された多様な連携型研究に積極的に取り組み、成果を挙げた大学院生を顕彰・奨励する目的で、2021年度に創設されました。

2025年度は、書類選考と面接審査を経て、最優秀賞2名、優秀賞5名、奨励賞4名の計11名が受賞しました。

※以下姓 ABC 音順 (所属・学年は応募時点)

### —最優秀賞—

Xiangyuan Guo (郭 香源)

(物質・環境系部門 中川 慎太郎 研究室 博士課程3年)

「Development of bottlebrush polymer reactors enabling precise control of polymerizations」

岩井 駿介

(人間・社会系部門 水谷 司 研究室 博士課程3年)

「スマートフォン搭載ハンディレダーのコンクリート構造物内部透視の技術開発と教育・文化財保護への応用展開」

### —優秀賞—

丸山 純矢

(人間・社会系部門 本間 裕大 研究室 博士課程3年)

「多様な空間スケールに応じた人流データ表現と社会実装に向けた基盤構築」

Ahmad Aki Muhaimin (アフマド アキム エーミン)

(人間・社会系部門 酒井 雄也 研究室 博士課程3年)

「Recycling construction debris from Ukraine through compaction method」

大橋 悠生

(基礎系部門 福谷 克之 研究室 博士課程2年)

「SLAC での水素曝露したトポロジカル絶縁体  $\text{Bi}_2\text{Se}_3$  の電子状態測定」

玉置 励伊

(物質・環境系部門 杉原 加織 研究室 修士課程2年)

「ポリジアセチレンに及ぼす生理的陽イオンの影響評価とサンプル製造最適化」

吉住 優憧

(機械・生体系部門 横田 裕輔 研究室 博士課程1年)

「無人海洋観測プラットフォームによる持続可能な海底地殻変動観測基盤の構築」

### —奨励賞—

Xuefu Dong (シュエフ ドン)

(情報・エレクトロニクス系部門 瀬崎 薫 研究室 博士課程3年)

「Embracing LiDAR on Commodity Smartphones for Fine-grained Pulmonary Function Sensing」

Zekun Hong (洪 沢坤)

(情報・エレクトロニクス系部門 杉浦 慎哉 研究室 博士課程3年)

「次世代 6G 高速通信に向けた非直交波形設計に関する日英国際共同研究」

Jiaxing Ren (任 家興)

(機械・生体系部門 梶原 優介 研究室 博士課程3年)

「Industrialization-Oriented Development and Mechanistic Understanding of Metal-Polymer Direct Joining」

Zongxuan Shao (邵 宗暄)

(人間・社会系部門 酒井 雄也 研究室 博士課程2年)

「Recycling waste concrete powder into low-carbon construction materials through compaction and carbonation」

授賞式を、本所 所長室にて開催し、国際・産学連携室 合田 和生 次長・教授の司会のもと、同室 岡部 洋二 室長・教授の挨拶、羽田野 直道 室員・教授による審査講評を行いました。続いて、本所 年吉 洋 所長から、受賞者に賞状と盾を授与され、祝辞がありました。その後の各受賞者によるスピーチでは、自身の研究活動で得た知見や、今後の研究に対する抱負を語りました。

自らの研究の意義を自分の言葉で語る経験は、学生にとって得がたい学びの機会です。本アワードが、研究の広がりを見据える多角的な視点を養い、「伝える力」を磨く契機となることを期待しています。

(国際・産学連携室)



最優秀賞、優秀賞受賞者との集合写真  
前列左より、大橋さん、玉置さん、岩井さん、丸山さん、Muhaimin さん  
後列左より、合田教授、岡部(洋)教授、年吉所長、羽田野教授  
(最優秀賞の Guo さんは、海外滞在中のため欠席)



海外滞在中のため、  
後日優秀賞賞状を授与された吉住さん



奨励賞受賞者との集合写真  
前列左より、Dong さん、Hong さん、Shao さん、Ren さん  
後列左より、合田教授、岡部(洋)教授、年吉所長、羽田野教授

## 第8回海底ケーブルの科学利用と関連技術に関する将来展望ワークショップ開催

2025年12月5日（金）、第8回海底ケーブルの科学利用と関連技術に関する将来展望ワークショップ（<https://seasat.iis.u-tokyo.ac.jp/CableWS/WS20251205/index.html>）が、本所 An 棟コンベンションホールにて開催された。本ワークショップは、本所海中観測実装工学研究センター主催にて、2018年から毎年1回開催されている。今回は基調講演1件、一般講演7件、そして特別講演1件、合計9件の発表が行われ、140名が参加した。

基調講演では、総務省の総合通信基盤局電気通信事業部データ通信課の宮本 知典 課長より「ワット・ビット連携とデジタルインフラの地方分散」に関する発表がなされた。デジタルインフラは、社会生活に必要な不可欠となる一方で、データセンターや海底ケーブルの陸揚局は特定の地域に集中している。この課題への対応として総務省が取り組む、電力インフラと通信インフラを効果的に整備する「ワット（電力）・ビット（通信）連携」について紹介がなされた。冒頭、「ワット・ビット」をご存じの方はいらっしゃるか、との問いには、参加者の2割程度が挙手したが、講演後は、おおいに浸透したであろう。

一般講演では、海域観測データの地震・津波・火山活動の予測など社会生活への利活用、トカラ列島近海の2025年群発地震活動時の緊急海底地震観測速報、グローバル光ファイバセンシングの提案、ケーブル敷設工法の改善についてなど、多岐にわたる話題が提供された。また、昨年度の本ワークショップでの講演「令和6年能登半島地震と海底ケーブル故障」におけるインフラ整備の重要性の問題提起を受けて、今回は、海

洋研究開発機構の野 徹雄 准研究副主任より、その地球科学的な側面を取り上げる意欲的な講演「『能登半島地震と海底ケーブル故障』に関する地球科学的な問題の検討」が行われた。

特別講演では、本学 浦 環 名誉教授による「沖縄丸・小笠原丸から始まる海底ケーブル敷設船の歴史」に関する発表がなされた。明治29年、英国で建造されたケーブル敷設船「沖縄丸」が日本に導入され、その10年後には小笠原丸が日本で建造された。「通信」技術の重要性が、当時から認識されていたことになる。本講演では、「大学は、過去に学びながら現在を考える場でなければならない。過去を知ることによって現在を相対化し、未来を切り開くことが歴史を学ぶことの意義」と、大学の存在意義が示された。

ワークショップの締めくくりとして、協賛学会である IEEE Oceanic Engineering Society (OES) Japan Chapter による IEEE OES Japan Chapter Young Researcher Award 2025 の表彰式を行った。本賞は、OES が開催する国際学会において、優秀な論文発表を行った若手研究者を表彰し、エールを送ることである。受賞した本所 NEETTIYATH Umesh 特任研究員のさらなる活躍を期待したい。

末尾になりますが、本ワークショップの幹事の一人である海洋研究開発機構 荒木 英一郎 グループリーダーが、2025年12月1日（月）付けで、本所 海中観測実装工学研究センター 客員教授に就任されました。本ワークショップのさらなる発展が期待されます。

（海中観測実装工学研究センター  
特任研究員 杉松 治美）



本ワークショップ 川口 勝義 実行委員長・本所リサーチフェローによる開会挨拶



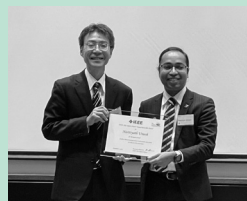
宮本課長による基調講演



荒木 幹事・本所 客員教授によるグローバル光ファイバセンシングについての講演



浦名誉教授による特別講演



IEEE OES Japan Chapter Young Researcher Award 2025 表彰式  
OES Japan Chapter 篠原 雅尚 Chair・本学 地震研究所 教授（左）と受賞者 NEETTIYATH 特任研究員（右）

## 第6回 次世代育成教育フォーラム 「STEAM教育を通じた『主体的・対話的で深い学び』の深化」を開催

2025年12月13日（土）、本所 次世代育成オフィス（ONG）は、本学 社会連携本部とともに、本所コンベンションホールにて「第6回 次世代育成教育フォーラム」を開催した。本フォーラムは、全国の教育関係者や企業関係者、学内関係者等を対象として開催されているもので、現在実施されている様々な次世代育成・高大接続事業の取り組みを紹介するとともに、今後の産官学民連携・協力の契機とすることを目的としている。今回のフォーラムでは、2022年度から本格導入された「総合的な探究の時間」を中心に、教科等横断的な学びを通じたSTEAM教育の広がりや、外部との協働の進展を振り返りながら、「主体的・対話的で深い学び」をさらに深化させるために、大学や企業がどのように関わり、学校現場と連携していくべきかを議論した。加えて、大学の果たす役割、外部人材の参画、カリキュラム・マネジメントを通じた教育の発展について展望し、社会が求める未来人材像を、学校と社会が協働していかに実現していくかを、多様な事例とともに考察した。

総合司会は本所 ONG 徳本 有紀 室員・准教授が務め、開会挨拶は本学 津田 敦 理事・副学長・社会連本部長が行い、続いて本学 社会連携本部 丹下 健 副本部長より本フォーラムの趣旨説明が行われた。さらに、経済産業省 商務・サービスグループ サービス政策課 教育産業室 柳橋 幸裕 企画官より来賓挨拶をいただいた。基調講演では、文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 堀川 拓郎 学校教育官、大分大学 教育マネジメント機構 STEAM 教育推進センター 竹中 真希子

教授より、次期学習指導要領の方向性やSTEAM教育の最新動向、今後の展望について講演いただいた。

後半のパネルディスカッションでは、「未来社会を担う人材育成に向けた大学・企業・学校の協働」をテーマに、本所 ONG 川越 至桜 室員・准教授をモデレーターに、堀川学校教育官、竹中教授に加え、埼玉県立春日部女子高等学校 田中 佐和 教諭、株式会社乃村工藝社 中村 友羽 氏がパネリストとして参加した。ここでは、学校・大学・企業がそれぞれの立場から、未来社会を見据えた人材育成に向けた役割と現状について共有した。そして、STEAM教育や探究活動における外部連携の現状と課題、さらに「主体的・対話的で深い学び」を一層深化させるために求められる協働のあり方や提案について、活発な議論が交わされた。

最後に、本所 ONG 大島 まり室長・教授による総括、本所 年吉 洋 所長の閉会挨拶で幕を閉じた。参加者からは「次期学習指導要領を見据えた新しい探究活動の方針や、現在実践されているSTEAM教育の事例紹介などを拝聴し、現在から将来に向けた探究の潮流を知ることができ、大変有意義だった。」「探究活動に対し新しい視座を得ることができ、今後、探究活動を展開する際に大変役立つと感じた。」「産官学民の連携による教育モデルの可能性に期待したい。」との多くの声が寄せられた。会場・オンラインともに多数の参加者を迎え、盛況のうちに終了した。ご協力いただいた登壇者、参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

（次世代育成オフィス 室員・教授 川越 至桜、  
学術専門職員 上田 史恵）



柳橋企画官による来賓挨拶



堀川学校教育官による講演



竹中教授による講演



川越准教授による話題提供



田中教諭による話題提供



中村氏による話題提供



パネルディスカッションの様子



登壇者の集合写真

## 東京大学生産技術研究所と飯山市が連携協力協定を締結

本所 芳村 圭 教授の研究グループは、長時間洪水予測技術を用いた効果的な災害対策の実現を目的とした研究を推進し、併せて、長野県飯山市内における風水害に対する災害対応業務の高度化を推進することを目的として、2025年12月15日（月）に、飯山市と連携協力協定を締結しました。

飯山市と芳村教授の研究グループは、同市にも甚大な被害をもたらした「2019年台風19号」による全国的な水害災害を契機に2021年より長野県の協力も得て立ち上げたJST（国立研究開発法人科学技術振興機構）未来社会創造事業「衛星観測とモデルシミュレーションとの融合による長時間洪水予測の実装：洪水を災害にさせない社会の実現に向けて」において、Today's Earth \*<sup>1</sup>を用いた洪水予測技術の実証都市の一つとして飯山市に参画いただく形で共同の取り組みを進めてきました。

その後、特に長野県での活動を重点化する中で、プロジェクト成果を活用した効果的な水害対策の実現をめざすモデル都市として、2024年頃から飯山市と複数回のオンライン会合や現地調査を重ね、相互理解と協

力体制の具体化を進めてきました。その結果として、今回、飯山市と本所との間で連携協力協定を締結する運びとなったところです。

締結式には、約20名の関係者が出席し、冒頭で飯山市 江沢 岸生 市長と本所 年吉 洋 所長からご挨拶があり、続いて飯山市より協定の概要が説明され、両氏により協定書へ署名が行われました。その後は芳村教授および研究グループの先生方から研究プロジェクトに関する説明、具体的には3つの柱となる①洪水予測性能の向上、②情報伝達力の強化、③社会対応力の強化について説明が行われ、1時間の式典は恙なく執り行われました。

国内において、水害対策は喫緊の課題であるだけに、この協定の締結により飯山市と芳村教授の研究グループが活発な研究活動を行い、その成果が今後の洪水対策に寄与することを期待します。

\*<sup>1</sup> JAXA と東京大学（芳村教授の研究グループ）が共同開発した、衛星データとシミュレーション技術を融合した陸域の水循環シミュレーションシステム。

（人間・社会系部門 教授 芳村 圭）



左から、江沢市長と年吉所長



研究プロジェクトについて説明する様子  
左から、芳村教授、名古屋大学 中村 晋一郎 准教授、  
京都大学 廣井 慧 准教授



協定締結後の記念撮影

## 第13回貴金属シンポジウム「貴金属の製錬・リサイクル技術の最前線」の開催

1月9日（金）に、本所 コンベンションホールにおいて、第13回貴金属シンポジウム「貴金属の製錬・リサイクル技術の最前線」を開催しました。本シンポジウムは、今後さらなる需要の拡大が見込まれる貴金属の製錬・リサイクル技術を中心テーマとし、本所の非鉄金属資源循環工学寄付研究部門（JX 金属寄付ユニット）、持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター、およびレアメタル研究会（第119回）の3つの組織が共同で企画・運営するシンポジウムです。本シンポジウムでは貴金属の製錬やリサイクルの技術を核としながらも、関連する幅広い分野の参加者を募り、人的ネットワークを拡充しつつ、貴金属に関する理解を深め、その可能性について議論する場を提供しています。

本所 岡部 徹 教授からの開会挨拶の後、本所 黒川 晴正 特任教授、大口電子株式会社 貴金属リサイクル部 勝目 一郎 顧問、小名浜製錬株式会社 生産部 PGM 課 千葉 拓実 課長補佐、田中貴金属工業株式会社 製造統括部 市川工場 製造技術セクション 甲斐 慎二 マネージャー、JX 金属製錬株式会社 佐賀製錬所 技術生産管理課 藤本 敦 主任技師、日比共同製錬株式会社

玉野製錬所 下川 公博 所長、秋田大学大学院国際資源学研究所 リサイクルプロセッシング講座 荒川 和也 客員准教授（DOWA メタルマイン株式会社 製錬技術センター秋田大学派遣）から、それぞれ講演が行われました。最後に本所 リサーチフェローである九州大学大学院工学研究院 材料工学部門 谷ノ内 勇樹 教授より閉会の挨拶がありました。貴金属関連企業を中心に産官学から、会場に250名以上の方々が参加し、活発な議論がなされました。

その後、ポスター発表・研究交流会・意見交換会が本所 An 棟 2F ホワイエにて行われ、貴金属業界の現状と課題について議論がなされ、大変盛況な会合となりました。本学には、教育・研究活動の発展、学生支援、施設整備などを目的に、一般の寄付金を原資として運営されている基金（東大基金）があり、岡部教授は、本学副学長、社会連携副本部長として、本シンポジウムとの関わりが大きい東大基金である貴金属研究・若手育成支援基金への寄付集めも熱心に行っていました。

（物質・環境系部門 講師 鳴海 大翔）



## 柏の葉地区で特定自動運行（自動運転レベル4）の運行開始 ～記者発表会および出発式～

柏の葉地区の自動運転バスに新しいレベル4自動運転バス車両が加わり、1月13日（火）から運行を開始した。今回の運行は道路交通法に定められたレベル4自動運転の運行にあたる特定自動運行の全国9例目で東京都市圏の市街地では最初の事例である\*<sup>1</sup>。

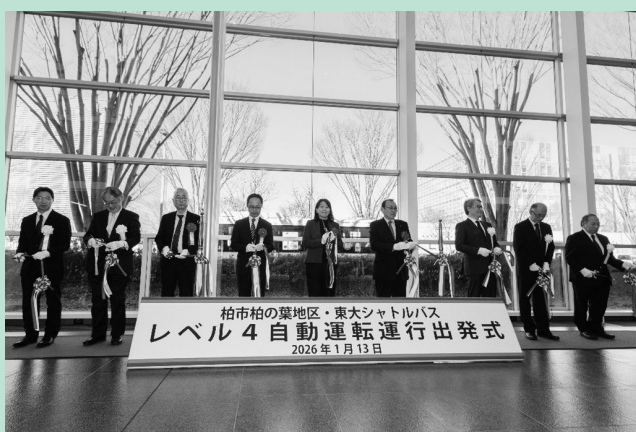
同日、記者発表会、出発式および試乗会が本学 柏キャンパスで開催され、柏市 太田 和美 市長、柏市議会 坂巻 重雄 議長、岡田 智佳 副議長、柏市建設経済環境委員会 福本 愛 委員長、東武バスセントラル株式会社 岩田 敏之 代表取締役社長をはじめとする実証実験の関係者や報道関係者が出席した。太田市長、岩田代表取締役社長より、自動運転バス運行と研究開発で得られた知見の展開に対する期待も含むご挨拶をいただいた。本所 年吉 洋 所長・教授、本学 新領域創成科学研究科 伊藤 耕一 研究科長・教授、本学 モビリティ・イノベーション連携研究機構 大口 敬 機構長・柏 ITS 推進協議会会長・本所 教授より、柏の葉地区で行ってきた本学の取り組みや今後の展望について挨拶をいただき、本所 ハーモニック・モビリティ研究センター 中野 公彦 センター長・教授よりレベル4自動運転バスの特徴について解説があった。その後の、

記念のテープカットに続き出席者による試乗が行われ、公道上の一部区間でのレベル4自動運転の様子を体験いただいた。交通・物流のドライバー不足に代表されるモビリティに関連した社会的課題を解決しうる手段としての自動運転に寄せられる高い期待が改めて実感される機会となった。

末筆ながら、今回の運行開始に至るまでに、柏の葉地区の皆様のご理解とご協力、経済産業省・国土交通省のRoADtotheL4プロジェクト・テーマ4（CooL4）に参加する各社のご支援、および、柏 ITS 推進協議会の参画団体の皆様によるご支援とご協力を得たこと、ここに記して謝意を表す。

\*<sup>1</sup> 特定の日に限り自動運転レベル4の機能を搭載したバスで運行する。自動運転レベル4で走行するのはルート全長2.6kmのうち700mで、これ以外はレベル2自動運転機能を用いて運行する。なお、気象条件、交通状況、そのほかの都合により、自動運転レベル4による運行を行わない場合がある。

（ハーモニック・モビリティ研究センター  
特任助教 霜野 慧亮（当時））



出発式において行われたテープカットの様子

左から、中野センター長、伊藤研究科長、先進モビリティ株式会社 青木 啓二 取締役会長、岩田取締役社長、太田市長、坂巻議長、年吉所長、大口機構長、本学 モビリティ・イノベーション連携研究機構 須田 義大 前機構長・柏 ITS 推進協議会 前会長・東京工科大学 教授



キャンパスを出発するレベル4自動運転バス

## 長野市 生研活動拠点「シナジーベース」で学生セミナー J-GMS寺子屋セミナー開催

本所と長野市は、2025年8月1日（金）に地域の課題把握や学術交流を通じて地域社会の発展に寄与することを目指し、「持続可能なまちづくりに関する相互の協力及び連携に関する連携協力協定」を締結し、長野市南長野西後町の複合施設 R-DEPOT 内に活動拠点「シナジーベース」を設置した。この協定を推進する一環として、2月2日（月）から4日（水）にかけて、本所 竹内 渉 教授を中心に空間調査およびセミナーを開催した。

2日（月）は、長野市松城町の象山地下壕と松代伝統環境保存事業をモバイル LiDAR（Light Detection And Ranging、ライダー、レーザー光を照射し、反射・後方散乱して戻ってくる光を検出して距離を測定する能動型のリモートセンシング技術）を用いて3D計測を実施し、デジタル保存に向けた基礎データの収集を行った。

3日（火）午前には、R-DEPOT 2階会議室で学生セミナーを行い、竹内研究室に加え、本所 水谷 司 研究室と桑野 玲子 研究室から併せて16名の学生が参加

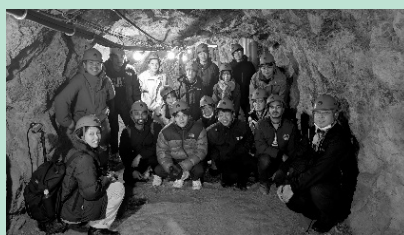
し、リモートセンシングや構造モニタリングといった最新の研究成果について英語で発表を行った。専門分野を越えた活発な議論が交わり、同日午後および4日（水）は、J-GMS 寺子屋セミナーを開催した。長野市の道路、上下水道、盛土対策などインフラ維持管理に関連する各課から15名が参加し、竹内教授と桑野研究室 久野 洵 技術職員によって InSAR（Interferometric Synthetic Aperture Radar、合成開口レーダ干渉法）技術を用いた J-GMS（Japan Ground Motion Service、地盤変位監視）や、専門知識を補完する AI ツールの活用手法が共有された。さらに、専門的な解析を効率化する AI 技術の導入について活発な議論が行われ、最新の研究知見を地域のインフラ維持管理や安全確保に役立てるための産官学連携の重要性が改めて示された。

今後も、シナジーベースを利用してセミナーなどの開催を計画している。

（人間・社会系部門 教授 竹内 渉、  
学術専門職員 吉本 英子）



複合施設 R-DEPOT の外観



象山地下壕にて集合写真



学生セミナーの様子



J-GMS 寺子屋セミナーの様子



全参加者による集合写真

## 2025年度CIRMM大学院修了者成果発表会を開催

2月9日（月）本所コンベンションホールにて、本所附属マイクロナノ学際研究センター（CIRMM）大学院修了者成果発表会を、スライドを用いた口頭発表とポスターセッションの2部構成で開催し、CIRMMの教員、職員、学生、約30名が参加しました。

開会にあたり、CIRMM 高橋 琢二 センター長・教授から、真摯に研究に取り組んで修士課程を修了する学生を称える挨拶がありました。次に、修士課程修了者12名による各5分間のショートプレゼンテーションが行われ、研究の概要が紹介されました。

ポスターセッションでは、修士課程修了者がそれぞれの研究成果の詳細を発表しました。前日に降雪があったせいか屋外は底冷えのするような日でしたが、セッション会場内ではそれを吹き飛ばすような熱い議論が行われ、約1時間のセッションタイムはあっという間に過ぎてしまったように感じられました。本発表

会以外にも年に何度かセンターの学生が集まることが恒例となり関係性が構築されてきたおかげか、ポスターを前にした学生同士の活発な交流も見られました。所内での新たな共同研究へ向けたアイデアの交換にもつながったようです。本発表会の最後に、閉会の挨拶としてCIRMM 高宮 真 副センター長・教授から、修了者だけでなく来年度以降も大学院に在籍する学生にも向けた激励の言葉がありました。

本成果発表会は、本年度で第四回となります。CIRMMではマイクロ・ナノ領域での物性から加工技術、機能、システムまでの各技術レイヤーを縦走的に結びつける研究を目指しており、今回の発表会からはその理念に沿った学際的研究の進展を感じることができました。

（マイクロナノ学際研究センター  
センター長・教授 高橋 琢二）



高橋センター長による開会挨拶



成果発表会参加者による集合写真



ショートプレゼンテーションに聴き入る参加者



ポスターセッションでの議論の様子

## 企画運営室 神奈川県立産業技術総合研究所 (KISTEC) 訪問

本所 企画運営室は今後の研究活動の参考とするために他機関への訪問を検討し、その過程において各都道府県には産業技術センターや研究所があり、実際にどのような取り組みを行っているのか、本所に参考になることがあるのではないかと意見があった。その結果、今回は神奈川県立産業技術総合研究所（以下「KISTEC」という。）を訪問した。KISTECは、神奈川県内の地元企業から年間約6,000件にも及ぶ分析・試験・技術相談に対応しており、地域の企業に密着した支援体制を構築している研究所である。

2月12日（木）の本訪問に、企画運営室 竹内 渉 室長・教授をはじめ、川越 至桜 教授、浅井 竜也 准教授、土屋 健介 准教授、戸矢 理衣奈 准教授、水谷 司 准教授、総務課 清水 正一 副課長 が訪問した。

当日は、KISTEC 北森 武彦 理事長・本学 名誉教授をはじめとする理事・幹部の皆様を含む10数名の職員の方々との意見交換会が行われた。また、外部機関との連携を促進するための多様な研究助成制度やコーディネート機能を備え、産学公連携を戦略的に推進している点が紹介された。

加えて、先端的な研究開発設備や実証環境を見学し、公設試験研究機関としての高度な技術基盤と実装志向の取り組みを体感した。地域課題に根差しながら産業振興へと展開する取り組みは、本所にとっても示唆に富むものであり、今後の活動の在り方を検討するうえで有意義な学びとなった。

（企画運営室 室員・准教授 水谷 司）



意見交換会の様子



施設見学の様子



KISTEC 本館前での集合写真  
左から、浅井准教授、川越教授、水谷准教授、竹内室長、戸矢准教授、土屋准教授

## 柏キャンパスサイエンスキャンプ 生研コース 開催

本学 柏キャンパスでは、2月17日(火)～20日(金)の日程で、柏キャンパスサイエンスキャンプ(以下、KSC) 生研コースを開催しました。KSCは、本学の全学体験ゼミナールの一環として教養学部前期課程1・2年生を対象に開催されるもので、受講生が柏キャンパスの先端研究部局における「知の冒険の現場」を集中的に体験することにより、将来の研究者としての基礎トレーニングを積むことを目的としています。全ての受講生が柏キャンパス周辺の宿泊施設に宿泊し、朝から晩まで研究に没頭できるという所謂、合宿形式での開催がKSCの特徴です。本所 柏地区においては、北澤 大輔 研究室、羽田野 直道 研究室、芳村 圭 研究室、井上 純哉 研究室、合田 和生 研究室の5つの研究室が開催する体験プログラムに、総勢19名の学生が3泊4日にわたって参加しました。

初日の午後から開講式と安全講習が行われ、受講生

は本所 柏地区を見学した後に、各研究室に分かれて体験プログラムを開始し、各々の研究活動に着手しました。2日目も受講生は朝から各研究室で研究を進め、夕方からは合田教授による「データプラットフォーム」に関する夜間講義を聴講し、その後の懇談会では本所の研究員や大学院生等と親睦を深めました。3日目に入ると受講生の研究も本格化し、夜遅くまで研究室に残る姿も見られました。最終日である4日目の午後には、研究成果発表会が行われ、全ての受講生が4日間の成果を発表しました。閉講式では受講生に修了証が授与され、和やかな雰囲気の中、全日程を終了しました。

KSCがきっかけとなり、受講生が科学技術や研究者の道に新たな興味や関心を抱いてくれることを願っています。

(大規模実験高度解析推進基盤 教授 合田 和生)



研究成果発表会の様子



懇談会で歓談する受講生と本所の研究員や大学院生

## UTmobIフォーラムを開催

2月20日（金）、本学 モビリティ・イノベーション連携研究機構（UTmobI）による研究活動の社会への発信と今後の連携を目的としたUTmobI フォーラムが、本学 柏の葉キャンパス駅前サテライトとオンラインのハイブリッド形式で開催された。今年度は、自動運転開発に関わる最新の研究活動を、UTmobIに所属する7名から講演を行った。最初に、本所 年吉 洋 所長・教授の開会挨拶の後、UTmobI 大口 敬 機構長・本所教授から「新たなモビリティ社会に向けたモビリティ・イノベーション」、本所 ハーモニック・モビリティ研究センター 中野 公彦 センター長・本所教授から「柏の葉地区におけるレベル4自動運転の実装」と題した講演が行われた。続いて、本所 鳥海 梓 特任准教授から「自動運転と歩行者が共存する街路空間を目指して～ITS R&R フィールドで探る、街路幾何構造と交通運用が果たす役割～」、本学 大学院情報理工学系研究科 塚田 学 准教授から「協調型 End-to-End 自動運転が

開くモビリティ社会の未来」、本所 水谷 司 准教授から「車載型地中レーダー・LiDARによる道路地下空間の三次元可視化—八潮市道路陥没事故を踏まえて—」と題した講演が行われた。更に、本学 大学院情報理工学系研究科 深尾 隆則 教授から「交差点周辺における協調型自動運転」、本所 山川 雄司 准教授から「高速ロボットからモビリティへ：高速ビジョンが作る未来」と題した講演が行われ、大口機構長の閉会挨拶で幕を閉じた。また、休憩時間には、現地参加者を対象にしたレベル4自動運転バスの試乗会を実施した。試乗会は、レベル4に乗車出来るとあって人気を集めた。本フォーラムの現地参加者は約60名、オンラインの参加者は約100名となり盛況であった。この場を借りて、ご参加いただいた皆様に感謝を申し上げます。

（ハーモニック・モビリティ研究センター  
特任助教 池谷 風馬）



年吉所長による開会挨拶



大口機構長による講演



中野センター長による講演



鳥海特任准教授による講演



塚田准教授による講演



水谷准教授による講演



深尾教授による講演



山川准教授による講演



試乗会での自動運転バス

## 最先端マテリアル研究公開@東大駒場リサーチキャンパスを開催

2月24日(火)に、「最先端マテリアル研究公開@東大駒場リサーチキャンパス」を開催しました。本イベントは、高専生・高専専攻科生・大学学部生・大学院生を対象に、工学系研究科マテリアル工学専攻に参画する本所および本学 先端科学技術研究センター（先端研）の研究室が研究紹介を行い、駒場リサーチキャンパスにおける最先端のマテリアル研究に触れてもらうことを目的としたものです。当日は、本学および他大学から学部生5名が参加しました。冒頭に本所E棟ラウンジにて、本所および先端研の概要説明を行った後、参加者が各研究室を訪問するラボツアーを実施しました。参加研究室と主な研究テーマは以下のとおりです。

### 【本所】

井上 純哉 研究室：  
データ駆動型冶金学による高強度材料開発  
八木 俊介・大内 隆成 研究室：  
電気エネルギーを有効活用するための蓄電池材料や電気化学触媒の研究と高効率な資源循環プロセス

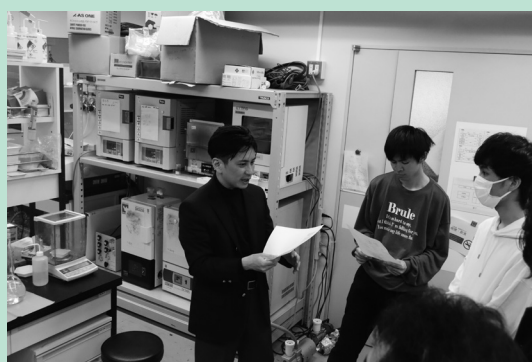
岡部 徹・鳴海 大翔 研究室：  
未来材料：チタン・レアメタル  
溝口 照康 研究室：  
物質設計に向けたマテリアルズインフォマティクス  
徳本 有紀 研究室：構造秩序物質科学  
枝川 圭一 研究室：  
準結晶の諸物性、トポロジカル絶縁体  
町田 友樹 研究室：  
ファンデルワールス接合における量子輸送現象  
【先端研】  
醍醐 市朗 研究室：  
持続可能な材料の生産・リサイクルシステム  
江島 広貴 研究室：生物に学ぶポリマーデザイン

ラボツアー終了後には、教員および大学院生を交えた懇親会を開催し、参加者との交流を深めました。参加者からは研究内容に関する質問に加え、進路選択に関する率直な相談も寄せられ、教員・大学院生にとっても大変有意義な機会となりました。

(物質・環境系部門 講師 鳴海 大翔)



徳本准教授による本所および先端研の紹介



八木教授による研究紹介



溝口教授による研究紹介



枝川教授による研究紹介

## 陸前高田市との先端技術による地方創生に関する連携協力協定締結式を開催

3月9日（月）に陸前高田市役所にて、本所、本学大学院農学生命科学研究科、および岩手県陸前高田市の間で、先端技術による地方創生に関する連携協力協定を締結しました。これまで同三者間では、ピーカンナッツの栽培・活用による地方創生を目的として連携してきましたが、これをさらに発展させて、より広範な分野において先端技術を活用して地域の発展に貢献する取り組みを進めることとなりました。

本協定では、ピーカンナッツの品種選抜や栽培技術の確立に加えて、農業生産や空間・景観デザインを通じた地方創生に関する教育研究、水産業の振興と持続的な海洋生物資源の利用、地域の魅力向上のためのデ

ザイン、ブランド構築などについて連携協力していきます。また同時に、同市コミュニティホール内にサテライトベースを設置する覚書を交わし、実質的な拠点づくりも進めていくことになりました。締結式当日は陸前高田市 佐々木 拓 市長、農学生命科学研究科 岩田 洋佳 副研究科長、本所 年吉 洋 所長に加えて、市および本学の関係者が締結式に列席しました。また締結式に加えてピーカンナッツ圃場の視察や記念植樹、海上養殖・陸上養殖場の見学や、陸前高田商工会との意見交換を行いました。

（食料生産技術研究センター センター長・准教授 大石 岳史）



連携協力協定締結式後の記念撮影

左から、陸前高田市教育委員会 山田 市雄 教育長、岩田副研究科長、年吉所長、佐々木市長、石渡 史浩 副市長



陸前高田市横田試験圃場の視察



記念植樹の様子



広田湾海上養殖の見学



陸前高田商工会との意見交換

## 令和7年度 退職教員記念講演会

本所 平本 俊郎 教授が2026年3月末日をもって本所を退職されるにあたり、3月11日（水）に「半導体集積デバイス研究：32年の軌跡と展望」と題して退職教員記念講演会が開催されました。

平本先生は、半導体集積デバイスであるシリコントランジスタをナノエレクトロニクスの視点から捉えた数々の先駆的で重要な研究業績を挙げてこられました。特にナノワイヤ・ナノシート型トランジスタのデバイス物理に関する研究成果は、現在の先端半導体企業における製造技術の礎となっています。また半導体技術ロードマップ委員会を国際的に先導され、応用物理学会会長を務められるなど、国内外で半導体分野における強力なリーダーシップを発揮してこられました。

講演に先立ち、東日本大震災から15年が経ったこ

の日、会場全体で黙祷を捧げました。

講演では、これらの主要な業績に加えて、本学での学生時代、株式会社日立製作所に入社され、その後、本所に着任された際の経緯、半導体の微細化と技術の進展の大きな時代の流れの中で歩まれた研究者人生を、エピソードを交えてご紹介いただきました。特に、平本先生が卓越した教育者であり、たくさんの卒業生が国内外を問わず半導体分野で大活躍されていることが印象的でした。ハイブリッド開催となり、現地とオンラインそれぞれ200人を超える聴講者となり、大変盛況となりました。

4月以降も新たな立場で日本の半導体技術研究に携わられます。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(情報・エレクトロニクス系部門 教授 小林 正治)



平本教授



平本研究室メンバーとの集合写真

## 令和7年度第3回生研サロン開催報告

3月13日（金）正午より、令和7年度第3回生研サロン「もしかする柏 昼の部：柏を知る！」が、駒場リサーチキャンパス内にあるレストラン ape cucina naturaleにおいて開催され、32名が参加しました。

本所 企画運営室 浅井 竜也 室員・准教授、水谷 司 室員・准教授の進行のもと、開会挨拶では、本所 年吉 洋 所長および本所 大規模実験高度解析推進基盤 (LEAP) 大口 敬 基盤長・副所長から、本所 柏地区のさらなる有効活用への期待が述べられました。

次に、LEAP 北澤 大輔 副基盤長・教授からは、「LEAP とその活用事例の紹介」と題して、西千葉にあった第二工学部から本所 千葉実験所への流れ、その後の柏地区への移転と価値創造デザイン推進基盤 (DLX) および LEAP 設置について、敷地や設備の整備状況、取り組まれてきた研究や実験の具体事例、現在の柏地区の運営体制と利用方法なども交えて紹介がありました。

続いて、本所 本間 健太郎 准教授からは、「DLX と柏Ⅱキャンパスの紹介」と題して、柏Ⅱキャンパスの立地や敷地内の各施設に関する基本的な情報に加え、DLX が入居する産学官民連携棟におけるプレゼン

ルームやワーキングスペース、仮想環境構築に使える4Dラボといった、様々な連携を促す施設の紹介がありました。

質疑応答・意見交換の時間には、個別の実験研究実施や学術イベント開催の観点での現有施設や利用方法についての質疑応答、さらなる活用に向けてどのような設備があると良いかといった意見交換が活発にされました。

終了後のアンケートでは、柏地区のさらなる活用やそのための利便性向上への期待に加え、柏キャンパスや西千葉の歴史を初めて知ることができた、皆で食事をしながら話せて楽しかった、といった意見が寄せられました。

「夜の部：柏を探る！」は、5月7日（木）16時30分から、柏キャンパスのホワイトライノⅡで開催予定です。柏地区のさらなる活用や、柏地区を拠点とした連携に関する意見交換の場として企画されますので、ぜひご参加ください。

（企画運営室 室員・准教授 浅井 竜也、  
室員・准教授 水谷 司）



年吉所長と大口副所長による開会挨拶  
(大口副所長はビデオメッセージ)



会場全体の様子



北澤教授による講演



本間（健）准教授による講演

## 第120回レアメタル研究会「鉄と非鉄とレアメタル」の開催

3月13日（金）に、本所 コンベンションホールにおいて、レアメタル研究会（第120回）「鉄と非鉄とレアメタル」をハイブリッド形式により開催しました。今回は、本学 大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻 森田 一樹 教授の退職を記念して、「森田一樹教授が熱く語る特別シンポジウム」と称して企画しました。本シンポジウムでは、鉄鋼、非鉄金属、レアメタルといった異なる金属材料分野の視点から、資源・材料研究の意義や将来像について多角的な議論が行われました。

森田教授は、本所 助教授（2005年）、本所 教授（2006年-2012年）を歴任され、2013年に本学 大学院工学系研究科マテリアル工学専攻へ異動されました。本所在任中には、本所附属サステナブル材料国際研究センターにも所属し、同センター長を歴任されるとともに、トロント大学とのサステナブル材料に関するコンソーシアムの構築や学生交流ワークショップの実施などを通じ、産学連携および国際交流の推進に尽力されました。

本シンポジウムは、本所 岡部 徹 教授による開会挨拶の後、森田教授の門下生の1人である大阪大学 大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻 吉川 健 教授より「森田先生に学んだ冶金学の道」と題して講演をいただきました。続いて、岡部教授が「レアメタルはアートなり」、早稲田大学 理工学術院創造理工学部環

境資源工学科 所 千晴 教授・本所 特任教授より「非鉄は文化なり」と題して講演を行いました。

最後に、本シンポジウムの主役である森田教授より「鉄は国家なり」と題して特別講演をいただき、自身の半生を振り返りながら、これまでの研究や教育の歩みについて語られました。

これまで森田教授と関係してきた方々を中心に産官学から多くの参加があり、会場100名以上、オンライン150名近くが参加し、本シンポジウムを通して、金属材料研究の多面的な広がりとその社会的意義が改めて示される機会となりました。講演会終了後には森田教授の退職のお祝いの会として研究交流会・意見交換会も開催されました。森田教授の退職を惜しみつつ盛会裡に終了しました。

吉川教授、東京科学大学 ゼロカーボンエネルギー研究所 物質理工学院材料系 小林 能直 教授をはじめ、本所 鳴海 大翔 講師もその1人として、かつて森田教授に師事し、現在それぞれの場で研鑽を重ねている研究者・技術者は日本・世界各地に広がっています。森田教授の指導のもとで培われた冶金学の知の系譜は、世代を越えて受け継がれ続けていることを改めて感じさせるものとなりました。

（物質・環境系部門 講師 鳴海 大翔）



開会の挨拶を行う岡部教授



講演を行う吉川教授



講演を行う所 教授



講演を行う森田教授



講演者の集合写真



研究交流会・意見交換会で乾杯の発声を行う、森田教授と昵懇の仲である本学 大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻 霜垣 幸浩 教授



研究交流会・意見交換会で森田先生との思い出を語る小林教授



研究交流会・意見交換会で閉会の挨拶を行う森田教授

## ダイニングラボ活動報告

駒場リサーチキャンパスのダイニングラボは、継続的に様々な企画を開催している。

駒場リサーチキャンパス構成員対象の交流企画「KOMANI BREAK TIME」を、2025年12月3日(水)、1月15日(木)、2月20日(金)の計3回、開催した。

ダイニングラボ地域連携企画では、1月30日(金)に、「旅するコマニ KOMANI journey Vol.1 山形テロワール 山形の恵みを味わう、至福の夕べ」を開催し、山形県河北町役場より河北町の紹介やかほくイタリア野菜について、また、同じく県内で100%ぶどうを使用したナチュラルワインを製造している自然派ワイナリー グレープリパブリック 小野 燿巧 醸造チーフよりワインについて紹介があった。その後の交流会

では、かほくイタリア野菜を使った料理やワインの試飲も行われた。

また、2月4日(水)に、日本文化を学ぶ会 Vol.7「豆腐の歴史、豆腐作りを学ぶ立春大吉」を開催し、京都市の上田とうふ株式会社 上田 忠宏 代表、豆腐マイスターの工藤 詩織さんによる豆腐を知る講座や、昨年に引き続き、上方落語家 桂 二乗 さんの登壇による落語が行われた。落語の合間には、立春大吉豆腐の振る舞い、食堂コマニの豆腐料理、京都の地酒が振る舞われた。

ランチタイムのリレー企画「はし休めプチトーク」は、第24回を2月5日(木)に、本所 清田 隆 教授が「馳せる」をテーマとして、研究紹介を行った。

(社会連携・史料室)



旅するコマニ KOMANI journey Vol.1 挨拶する本所 吉江 尚子 教授、かほくイタリア野菜の紹介の様子



旅するコマニ KOMANI journey Vol.1 食事の様子、かほくイタリア野菜を使った料理



日本文化を学ぶ会 Vol.7 食事の様子



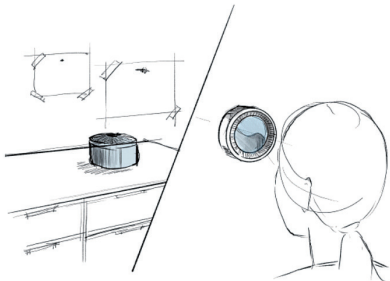
講演する清田教授

# PRESS RELEASE

[12月10日共同発表]

## 株式会社アズパートナーズと東京大学 生産技術研究所 DLX デザインラボが共同研究 「孤独を見つめ、つながりをデザインする」—— プロジェクト Collins ——

価値創造デザイン推進基盤 DLX デザインラボ



株式会社アズパートナーズ（東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO 植村 健志、以下アズパートナーズ）は、本所 DLX デザインラボと共同で、高齢社会における「孤独の課題」をテーマとした研究プロジェクト「プロジェクト Collins（コリンズ）」を実施しました。

本研究成果は、2025年12月3日、東大生研 DLX デザインラボの公式ウェブサイト（<https://www.designlab.ac/ja/post/project-collins-jp>）にて公開されました。

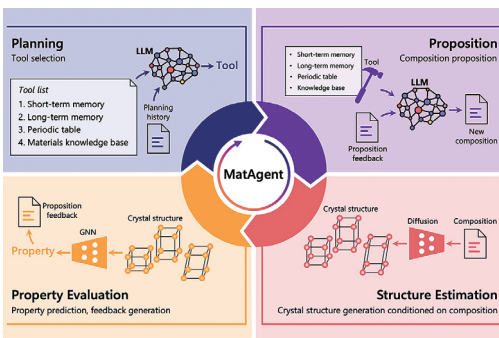
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4947/>

（発表主体：株式会社アズパートナーズ）

[12月18日記者発表]

## 大規模言語モデルで専門家のように材料空間を探索 —— 自律性と解釈性を備えた無機材料設計のための AI エージェントを開発 ——

物質・環境系部門 博士課程 高原 泉、教授 溝口 照康



本所 溝口 照康 教授、本学 大学院工学系研究科 高原 泉 大学院生、モンリオール大学・Mila - Quebec AI Institute の Bang Liu 准教授らの研究グループは、大規模言語モデル (LLM) をエージェントとして活用し、目標特性を持つ無機結晶材料を自律的に探索・設計する手法を開発した。

材料探索における専門家の思考プロセスを模倣したツール（短期記憶・長期記憶・周期表・知識ベース）を LLM の推論プロセスに統合することで、幅広い材料空間の探索を実現した。

本手法を用いることで、平易な自然言語で環境問題や資源制約を考慮した制約を付与したり、提案材料がなぜ有望なのかを解釈したりすることが可能となり、材料開発の加速と理解の深化に貢献することが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4955/>

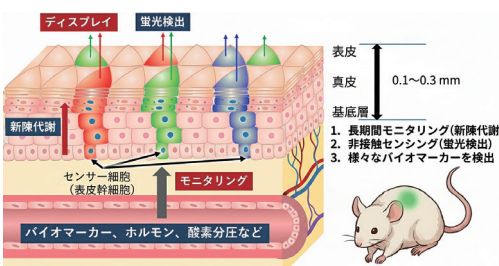
掲載誌：Cell Reports Physical Science

DOI：10.1016/j.xcrp.2025.103019

[1月13日記者発表]

## 皮膚が光って健康状態をお知らせ —— 表皮幹細胞を用いた生体バイオマーカーの連続的監視 ——

機械・生体系部門 特任教授 竹内 昌治



東京都市大学 藤田 博之 特別教授（本学 名誉教授）、本所 竹内 昌治 特任教授（本務：本学 大学院情報理工学系研究科 教授）、澤山 淳 特任助教（研究当時）、および理化学研究所 生命機能科学研究センター (BDR) 辻 孝 チームリーダー（研究当時）、キヤノンメディカルシステムズ株式会社 先端研究所 矢野 亨治 研究員らの研究グループは、炎症性物質に反応して蛍光を発する表皮幹細胞を用いた「リビングセンサーディスプレイ」を開発した。

作製した人工皮膚をマウスに移植したところ、体内の炎症反応に応じて蛍光強度の変動を確認した。皮膚の新陳代謝によりセンサー機能を長期間維持できるため、慢性疾患の監視、ペットの健康管理などへの応用が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4966/>

掲載誌：Nature Communications

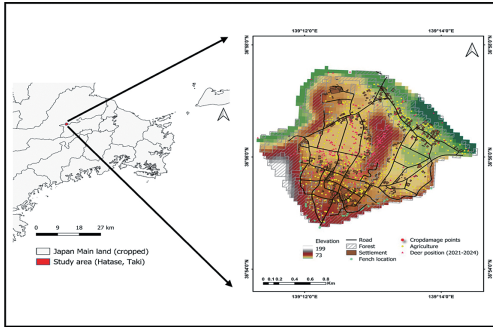
DOI：10.1038/s41467-025-67384-2

# PRESS RELEASE

【1月13日記者発表】

## ニホンジカの生息域と人との接触時リスク評価

人間・社会系部門 特任教授 沖 一雄



本所 パンデイト サンタ 特任研究員、沖 一雄 特任教授（兼：京都先端科学大学工学部 教授）、南アフリカ共和国 西ケープ大学 ドゥベ ティモシー 教授、株式会社協和コンサルタンツ 諸藤 聡子氏、英国 プリマス海洋研究所 サレム イbrahim サレム氏（兼：京都先端科学大学工学部 特任准教授）からなる学際的研究チームは、三重県多気町波多瀬地区においてニホンジカ（*Cervus nippon*）に関する研究を実施した。本研究では、先進的な地理空間技術と専門家の知見を組み合わせ、ニホンジカの生息適性と人間との接触時リスクを評価した。基準選定、意思決定階層の構築、専門家評価の収集、階層分析法の適用という体系的な4段階の枠組みを用いることで、実践的な接触時緩和策に関するエビデンスに基づいた提言を提示している。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4975/>

掲載誌：Ecological Informatics

DOI：10.1016/j.ecoinf.2025.103562

【1月13日記者発表】

## 東京都市圏の公道で初\*！ 柏の葉地区で特定自動運行（自動運転レベル4）の運行開始

機械・生体系部門 教授 中野 公彦



1月13日から、本学を幹事機関として名古屋大学、産業技術総合研究所、三菱総合研究所、日本自動車研究所、先進モビリティにより構成するRoAD to the L4 テーマ4 コンソーシアムと東武バスグループの東武バスセントラルは、柏の葉キャンパス駅と本学柏キャンパスを結ぶシャトルバス路線の一部の便において特定自動運行を開始した。

\*東京都市圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の公道において、初の自動運転車（レベル4）による運行開始となる。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4972/>

RoAD to the L4 テーマ4 コンソーシアム (CooL4) に関する問い合わせ：

本所 ハーモニック・モビリティ研究センター <https://www.its.iis.u-tokyo.ac.jp>

【1月27日記者発表】

## 「自律型無人探査機（AUV）の利用実証試験」にて AUV を港から発進させ、海底マッピングと人工物の精査に成功

機械・生体系部門 教授 ソーントン ブレア



本所 ソーントン ブレア教授は、OKIグループで海洋音響関連事業を手掛ける株式会社OKI コムエコースおよび株式会社ディープ・リッジ・テクの3者共同でSummarAIを開発した。これまでAUVのデータ（観測データや艇体情報）は、回収後のみ確認可能であったが、調査中でも取得データを確認可能にした。これにより、港からAUVを発進する運用が、新たなAUVの利活用につながる可能性を示した。

本成果は、内閣府総合海洋政策推進事務局「自律型無人探査機（AUV）利用実証事業」の公募事業に採択され、「港から発進して海底をマッピングするAUV（注1）と港から発進して目標物を精査するAUV調査の実証試験」を2025年12月に実施した。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4985/>

関連情報：

・内閣府総合海洋政策推進事業部 自律型無人探査機（AUV）利用実証試験

URL: [https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/auv/auv\\_pilot\\_project/pilot\\_index.html#20250610](https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/auv/auv_pilot_project/pilot_index.html#20250610)

・AUV 官民プラットフォーム

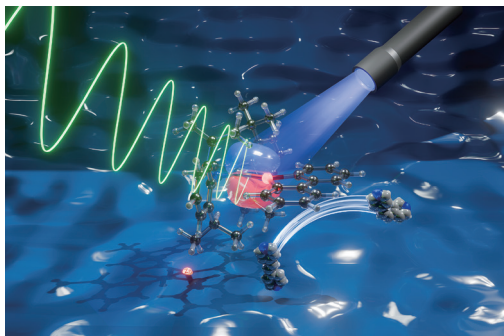
URL: [https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/auv/call\\_for\\_participants/auv\\_index.html](https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/auv/call_for_participants/auv_index.html)

# P R E S S R E L E A S E

【2月3日記者発表】

## 可視光照射で長く光る亜鉛化合物を開発 ——「空（から）」の軌道を利用し、亜鉛に可視光機能を付与——

物質・環境系部門 博士課程 岩本 秀光、助教 和田 啓幹、教授 砂田 祐輔



研究グループは、可視光を吸収し、2ミリ秒と長く発光し続ける分子状の亜鉛化合物を創出した。さらに、この特性により、青色LEDを利用した光触媒反応への応用にも成功した。これは、亜鉛のもつ、電子を収容していない「空（から）」の軌道を効果的に利用する新しい分子設計により、従来の亜鉛化合物の課題であった「可視光吸収の乏しさ」「励起子寿命（吸収した光エネルギーの保持時間）の短さ」を同時に克服した結果である。

本分子設計は、希少金属に依存しないため、低コストな可視光機能材料開発が期待される。加えて、亜鉛の生体適合性を活かし、創薬・医療・バイオ分野への展開に資する技術となることが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4993/>

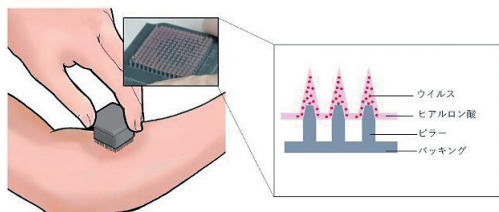
掲載誌：Chemical Science

DOI：10.1039/D5SC09340F

【2月5日記者発表】

## 「貼る」新型コロナウイルス感染症ワクチン ——自己接種や常温輸送を目指すマイクロニードルワクチンパッチ——

機械・生体系部門 博士課程 荘林 幸太郎、教授 金 範焄



マイクロニードルパッチの適用

新型コロナウイルス感染症のワクチンをマイクロニードルに組み込んだ「ワクチン接種デバイス」を開発した。動物実験で、注射よりも抗体応答が高い傾向を示した。

マイクロニードルの作製プロセスを改良し、ワクチンの充填率の大幅な向上と、製造過程におけるウイルス力価の安定化に成功した。

将来的には痛みが少なく自分で打てるワクチン接種デバイスを目指し、常温での輸送を可能にすることで、医療従事者やインフラが整っていない発展途上国での予防接種への貢献も期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4997/>

掲載誌：Scientific reports

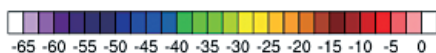
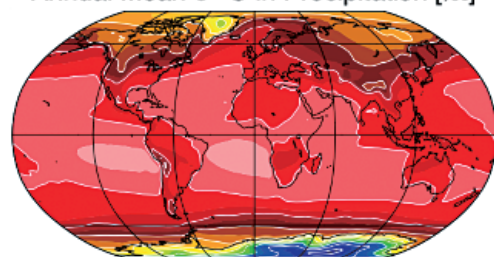
DOI：10.1038/s41598-025-29183-z

【2月12日記者発表】

## 「水の同位体」を用いて地球の水循環を精密に可視化 ——国際モデル比較プロジェクト WisoMIP による世界初の標準化解析——

人間・社会系部門 協力研究員 奉 夏暎、特任助教 コクワン アレクサンドル、教授 芳村 圭

Annual Mean  $\delta^{18}\text{O}$  in Precipitation [‰]



気候変動研究の課題の一つとして地球規模での水循環の解明があり、「水の同位体」を指標に大気中の水循環を探る気候モデルが、世界中で複数開発されてきた。

各モデルの開発者と連携した大型国際プロジェクトを進め、世界で初めて、同一条件で8つの気候モデルの比較に成功した。その結果、個々のモデルよりも複数のモデルの平均が観測と最もよく一致することが判明した。

本成果は、地球の水循環過程の理解を深化させ、気候変動予測・古気候復元・衛星観測の高度化のための基盤データとしての活用が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4990/>

掲載誌：Journal of Geophysical Research: Atmospheres

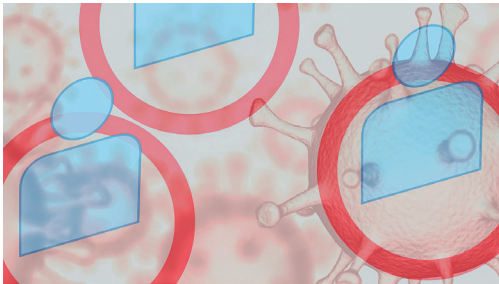
DOI：10.1029/2025JD044985

# PRESS RELEASE

【3月6日共同発表】

## パンデミックを止めるために他者への強い配慮は必要ない —— 感染時の自己隔離は自然な生存戦略であることを数理モデルが解明 ——

情報・エレクトロニクス系部門 特任助教 Simon Schnyder



本所 Simon K. Schnyder 特任助教、英国ウォーリック大学 Matthew S. Turner 教授らの研究グループは、感染症流行時に人々がどのような行動を選ぶかを数理モデルとゲーム理論を用いて予測することに成功した。感染者は自ら隔離しても直接の利益を得にくいいため、これまで自己隔離には他者への配慮が必要だと考えられてきた。本研究では、感染状況や流行規模、ワクチン接種までの時間などを考慮したモデルを構築し、人々の行動がどのような集団結果を生むかを調べた。その結果、ごく弱い利他性しか持たない場合でも、感染時に接触を大きく減らすことが合理的な選択となり得ることを示した。多くの人がそのように行動すれば、大規模流行を防げる可能性がある。本成果は、感染症対策における自発的行動の重要性を示すとともに、今後の公衆衛生政策の検討に新たな視点を提供する。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5012/>

掲載誌: *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America (PNAS)*

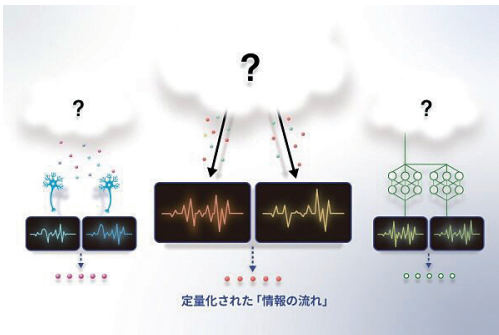
DOI: 10.1073/pnas.2518893123

発表主体: 京都大学

【3月13日記者発表】

## 「見えない入力」から情報の流れを読み解く —— デュアルレポーター法を用いた細菌走化性の情報処理の解明 ——

情報・エレクトロニクス系部門 教授 小林 徹也



本所 小林 徹也 教授と理化学研究所 脳神経科学研究センター 中村 絢斗 基礎科学特別研究員、大阪大学 大学院生命機能研究科の研究グループは、生物の情報処理を特徴づける「入力から出力への情報の流れ」を、入力時系列を直接測定することなく定量化する新しい手法を提案した。

本手法を大腸菌の走化性シグナル伝達系に適用し、生命が情報理論の限界に近い性能で情報伝達していることを実験的に示した。

本手法は出力とそのコピーを同時に計測できれば広く適用可能であり、神経回路や発生過程、さらには人工知能等、多様なシステムの情報論的理解に応用されることが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5020/>

掲載誌: *Physical Review Letters*

DOI: 10.1103/jrph-wj94

【3月13日共同発表】

## 東京大学 生産技術研究所と東京大学 大学院農学生命科学研究科及び陸前高田市が連携協力協定を締結

食料生産技術研究センター 教授 北澤大輔、特任教授 沖 一雄  
センター長・准教授 大石 岳史、副センター長・准教授 巻 俊宏



本所と本学 大学院農学生命科学研究科及び陸前高田市は、3者の密接な連携と協力のもと、先端技術を活用して農水産業の生産基盤を構築するとともに、安全・安心なまちづくりのグローバルモデルを構築することにより、我が国の地方創生に寄与することを目的として、先端技術による地方創生に関する連携協力協定を締結した。

陸前高田市役所で行われた締結式には、本所 年吉 洋 所長や本学 大学院農学生命科学研究科の岩田 洋佳 副研究科長、陸前高田市の佐々木 拓 市長らが出席し、農業、水産、そのほか地域の魅力向上に向け、協定書に署名した。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5026/>

締結日: 令和8年3月9日 (月曜日)

(発表主体: 陸前高田市)

# VISITS

## 国際研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
MUELLER, Jochen	ドイツ	2026/ 3/17 ~ 2026/ 8/27	人間・社会系部門 大岡 龍三 教授
HOANG, Duong Tuan	オーストラリア	2026/ 4/ 1 ~ 2027/ 1/31	情報・エレクトロニクス系部門 杉浦 慎哉 教授
Kuşçu Şimşek, Çağdaş	トルコ	2026/ 7/ 1 ~ 2027/ 6/30	人間・社会系部門 大岡 龍三 教授

## 国際協力研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
PAUTY, Joris	フランス	2026/ 3/ 1 ~ 2027/ 2/28	機械・生体系部門 松永 行子 教授
MA, Qiaobo	中国	2026/ 4/ 1 ~ 2026/ 9/30	情報・エレクトロニクス系部門 高宮 真 教授
BRIX, Emma Eléonor	フランス	2026/ 4/ 1 ~ 2027/ 3/31	機械・生体系部門 金 秀炫 准教授
LU, Nan	中国	2026/ 4/ 6 ~ 2026/ 6/27	情報・エレクトロニクス系部門 佐藤 洋一 教授

## 博士研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
GONG, Jiaming	中国	2026/ 4/ 1 ~ 2026/ 6/30	機械・生体系部門 鹿園 直毅 教授

## 修士研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
GAO, Hongxia	中国	2026/ 4/ 1 ~ 2027/ 3/31	機械・生体系部門 北澤 大輔 教授
工藤 佑太	日本	2026/ 4/ 1 ~ 2026/ 6/30	情報・エレクトロニクス系部門 菅野 裕介 准教授
宗安 慧悟	日本	2026/ 4/ 1 ~ 2027/ 3/31	物質・環境系部門 岡部 徹 教授
ZHU, Yaling	中国	2026/ 5/ 1 ~ 2027/ 4/30	人間・社会系部門 酒井 雄也 准教授

## 東京大学特別研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
吉田 泰大	日本	2026/ 1/ 1 ~ 2026/ 3/31	機械・生体系部門 長谷川 洋介 教授
GUILLEMOT, Victor Adrien	フランス	2026/ 4/ 1 ~ 2028/ 3/31	情報・エレクトロニクス系部門 野村 政宏 教授
GARCIA, Gustavo	アメリカ	2026/ 5/15 ~ 2028/ 5/14	機械・生体系部門 松永 行子 教授

# PERSONNEL

## 人事異動

### 生産技術研究所 教員等

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7.12.31	福島 佳浩	退職	助教 愛媛大学大学院理工学研究科	助教 人間・社会系部門

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 1. 1	井出 倫澁	昇任	講師 情報・エレクトロニクス系部門	助教 情報・エレクトロニクス系部門
R8. 1. 1	安宅 学	配置換	助教 情報・エレクトロニクス系部門	助手 情報・エレクトロニクス系部門
R8. 2. 1	川越 至桜	昇任	教授 機械・生体系部門	准教授 機械・生体系部門

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 1. 1	森竹 勇斗	兼務	特任准教授 ニコン 光・精密フロンティア寄付研究部門	准教授 基礎系部門

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7.12.31	LYU ZEWEL	退職	-	特任助教

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 1. 1	王 小醒	採用	特任助教 人間・社会系部門 芳村研究室	特任研究員 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
R8. 2.28	WU YUNHUI	退職	-	特任助教
R8. 3. 1	竹本真一郎	採用	特任教授	特任教授 (特定短時間)

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7.12.31	大川 武彦	退職	-	特任研究員
R8. 1.31	CHESLET JEREMY	退職	-	特任研究員
R8. 2. 6	HU BEI	退職	-	特任研究員
R8. 2.28	MAO JINGTIAN	退職	-	特任研究員
R8. 2.28	PRADAL Pauline Camille Charlotte	退職	-	特任研究員
R8. 2.28	RATH SOTHYRAK	退職	-	特任研究員
R8. 3. 1	WANG HONG	採用	特任研究員 人間・社会系部門 山崎研究室	-

(学術専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 1.31	大金 薫	退職	特任専門職員 (非常勤) 東京農工大学	学術専門職員

# PERSONNEL

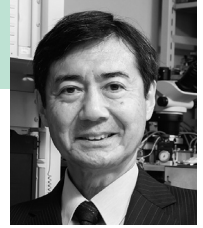
## 生産技術研究所 事務系

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8.1.1	千葉 大輔	命	予算執行チーム チームリーダー	予算執行チーム サブリーダー
R8.1.1	小山 優菜	命	予算執行チーム サブリーダー	-
R8.1.1	木村 和則	免	-	予算執行チーム チームリーダー
R8.1.27	濱田英梨子	命	国際交流チーム チームリーダー	-
R8.1.27	神谷 夏子	免	-	国際交流チーム チームリーダー

## ■ 定年退職のご挨拶

情報・エレクトロニクス系部門 教授  
平本 俊郎



33歳の時、恩師から突然生研に呼び戻されました。「シリコン(半導体)をやりなさい」。右も左もわからない若造が、藤田博之先生が作られたばかりの六本木の新クリーンルームで挑戦を始めました。駒場に移転し、我が国の半導体産業が競争力を失うのを悔しい思いでみてきましたが、どうか先端半導体の分野に踏みとどまり、国のプロジェクトで次世代 Beyond 2nm 半導体の開発を任されるまでになりました。生研には感謝しても感謝しきれません。ありがとうございました。

## ■ 昇任のご挨拶

機械・生体系部門 教授  
川越 至桜



2月1日付にて教授に昇任いたしました。着任以来、STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts and Mathematics) 教育および科学技術コミュニケーション分野の実践研究に取り組んでまいりました。本所の工学研究成果を教育を通じて社会に還元すべく、次世代育成オフィス(ONG)での活動をはじめ各種実践において、多くの方々よりご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今後も未来社会をデザインできる次世代人材の育成に貢献するとともに、本分野において生研が世界をリードできるよう尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

情報・エレクトロニクス系部門 講師  
井出 倫滉



1月1日付で情報・エレクトロニクス系部門の講師に昇任いたしました。2024年より助教として生研に着任し、高周波の無線通信や無線給電向け集積回路設計を専門分野として研究を進めてまいりました。現在は、無線通信と無線電力伝送を同時に行うデータ電力同時伝送技術に着目し、電池交換や配線を必要としない機器の実現を通じて、幅広い分野に貢献可能な次世代インフラ技術の創出を目指しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

# AWARDS

## ■ 受賞 教員

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
機械・生体系部門 長谷川研究室	博士研究員 Guan Fengbo	若手優秀講演表彰 日本流体学会	Experiment study on flow and heat transfer through parallel porous plates by using a single blow method and PIV	2025.11.1
情報・エレクトロニクス系部門 松久研究室	准教授 松久 直司	Best Contributor Award ICAE 2025 事務局	Best Contributor Award	2025.11.27
物質・環境系部門 南研究室	准教授 南 豪	Outstanding Editorial Board Member Wiley Smart Molecules	being Outstanding Editorial Board Member	2025.12.12
物質・環境系部門 南研究室	准教授 南 豪	電気情報通信学会シニア会員 一般社団法人電気情報通信学会	電気情報通信学会シニア会員	2025.12.15
情報・エレクトロニクス系部門 松久研究室	准教授 松久 直司	第22回(令和7(2025)年度)日本学術振興会賞 独立行政法人日本学術振興会	超柔軟材料による伸縮性電子デバイス	2025.12.16
情報・エレクトロニクス系部門 高宮研究室	教授 高宮 真 助教 畑 勝裕 修士課程2年 張 伏波	NEパワー・エレクトロニクス・アワード2025 最優秀賞 株式会社日経BP「日経エレクトロニクス(NE)」	1チップ化で動的ゲート駆動の実装容易に、パワー半導体のスイッチング損失49%減	2025.12.16
情報・エレクトロニクス系部門 年吉研究室	教授 三屋 裕幸 教授 芦澤 久幸 教授 森田 将裕 教授 石黒 巧真 (鷲宮製作所) 教授 橋口 原 (静岡大学) 教授 年吉 洋	BEST PAPER AWARD POWER ALBUQUERQUE MEMS2025	MEMS ELECTRET-BASED ACOUSTIC HARVESTER WITH HELMHOLTZ RESONATOR FOR EVENT-DRIVEN I T SENSING	2025.12.18
価値創造デザイン推進 基盤 DLX デザイン ラボ	講師 金 賢貞 (デザイナー) Sophie-Charlotte Bolinski Juliette Yuzumi Scholler-lida Tamaki Miyase (Royal College of Art) Shota Kiuchi Malo Le Meur (Département GEII de l'UT de Bordeaux) 准教授 清川 泰志 (本学 大学院農学生命科学研究科) 原 啓義 (フォトグラファー)	iF DESIGN AWARD 2026 iF International Forum Design GmbH	Rats in the city	2026.2.24

# A W A R D S

## 受賞 教員

物質・環境系部門 南研究室	准教授	南 豪	2025年度 化学とマイクロ・ナノシステム学会 奨励賞 化学とマイクロ・ナノシステム学会	超分子のアプローチに基づく分子認識材料の創製と 化学センサデバイスの開発	2026. 3.10
物質・環境系部門 鳴海研究室	講師	鳴海 大翔 太田 誠 (古野電気株式会社) 藤田 健吾 (日本航空株式会社) 講師 勝部 涼司 (名古屋大学) 教授 安田 秀幸 (京都大学)	日本鉄鋼協会 2026 年澤村論文賞 日本鉄鋼協会	Nucleation-controlled Selection of Metastable Ferrite in Solidification of Fe-22mass%Mn-0.7mass%C Alloy	2026. 3.11

●受賞決定時の職名(学年)を記載しています。

## 受賞 学生

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日	
人間・社会系部門 林(憲)研究室	修士課程2年	高井 千春	(2025年度日本建築学会大会(九州)学術講演会 建築歴史・意匠部門)若手優秀発表賞 一般社団法人日本建築学会 建築歴史・意匠委 員会	オマーンの歴史的建造物に関する研究 その2 文化財 保存制度と修復理念の変遷 UNESCO 専門官 A.G.Walls の報告書を中心に	2025.11. 5
人間・社会系部門 竹内(渉)研究室 目黒研究室 水谷研究室	博士課程3年 Arliandy Pratama (Takeuchi Lab) 博士課程3年 Arpan Singh (Meguro Lab) 博士課程3年 Abishek Regmi (Mizutani Lab)	1. Second Prize in the pre-conference poster presentation competition 2. First Prize in the pre-conference bridge and building workshop competition CSIR-Central Building Research Institute (CBRI), India	Poster presentation competition of One World, many Hazards; Student Competition of Bridge and Building	2025.11.19	
物質・環境系部門 小倉研究室	修士課程2年	佐久間志帆	第16回次世代天然ガスを考える若手勉強会 学生 口頭発表賞 石油学会ジュニア・ソサイアティ	様々な種類の活性点を考慮したメタン燃焼触媒の計 算科学的検討	2025.11.22
機械・生体系部門 岡部(洋)研究室	修士課程1年	王 垣力	Best Student Paper Award (1st Prize) The 3rd China-Korea-Japan Joint Symposium on Composite Materials	A Grid-Pattern Spray Coating Strategy for CNT Strain Sensors: Balancing Sensitivity and Stability	2025.11.23
人間・社会系部門 桑野研究室	修士課程2年	真下 康平	優秀発表者 GeoKanto2025	自動化定体積三軸試験を用いた不飽和土の応力径路 評価:含水比の影響に着目して	2025.11.25
情報・エレクトロニ クス系部門 松久研究室	修士課程1年	平岡 愛姫	ICAE Best Poster Award Gold The Korean Institute of Electrical and Electronic Material Engineers	Stretchable Polymer Semiconductors with Residual Solvents for High Current-Density Diodes	2025.11.26
物質・環境系部門 北條研究室	修士課程2年	宮里 俊次	日本化学会秋季事業 第15回CSJ化学フェスタ 2025 優秀ポスター発表賞 公益社団法人日本化学会	サリチリデンアルキルアミンの構造相転移と光・熱応 答特性における偶奇効果	2025.11.27
機械・生体系部門 北澤研究室	博士課程3年 助教 教授	胡 磊 周 金鑫 北澤 大輔	Good Presentation Award at 12th East Asian Workshop for Marine Environment and Energy (EAWOMEN2) East Asian Network for Marine Environment and Energy (EAMEN2)	Experimental studies on microplastics separation from water using magnetic hydrocyclone	2025.11.28
人間・社会系部門 桑野研究室	修士課程2年	真下 康平	Best Poster Award EraGET2025	Experimental Determination of the State-Boundary Surface for an Unsaturated Silt: A Preliminary Study Using an Automated Constant Volume System	2025.12.12
物質・環境系部門 砂田研究室	博士課程2年	岩本 秀光	Chemistry Letters Young Researcher Award 5th International Symposium on Photofunctional Chemistry of Complex Systems (ISPCS2025)	Formation of Empty C-Zn $\pi$ Orbitals: Toward Visible Light Response in Mononuclear Zn (II) Complexes	2025.12.14
物質・環境系部門 小倉研究室	博士課程2年 修士課程修了 修士課程修了 修士課程修了	NAGAPPAN Murugappan 佐藤 歩実 Jiachen Ge 山田 有紗 (本学 大学院総合文化研究科) 中村 優希 (株式会社エフ・リネード・ラボラトリーズ 主任研究員) 名誉教授 尾中 篤 教授 小倉 賢	Best paper presentation award (1st prize) Indian Institute of Chemical Engineers (IICChE)	Bio-catalysis for Sustainability: Lipase Immobilized on Mesoporous Silica as a Catalyst Towards Biodiesel Synthesis Application	2025.12.30
基礎系部門 浅井研究室	修士課程1年	白田 大弥	2025年度日本地震工学会大会 優秀発表賞 公益社団法人 日本地震工学会	高空間分解能計測を用いたRC造柱梁接合部の静的載 荷実験 - その4 エポキシ樹脂による補修後の載荷実 験 -	2026. 1. 7
基礎系部門 町田研究室	修士課程1年	伊藤 美香	若手奨励賞 学術変革領域研究 (A)「2.5次元物質科学:社 会変革に向けた物質科学のパラダイムシフト」	p <sup>+</sup> -MoS <sub>2</sub> /h-BN/p <sup>+</sup> -MoS <sub>2</sub> 共鳴トンネル接合における負 性微分抵抗を用いた高周波発振	2026. 1.24

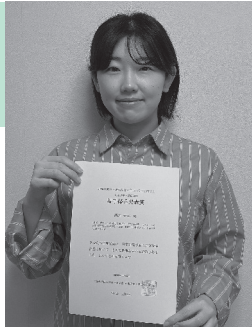
●受賞決定時の職名(学年)を記載しています。

# AWARDS

## 受賞のことば

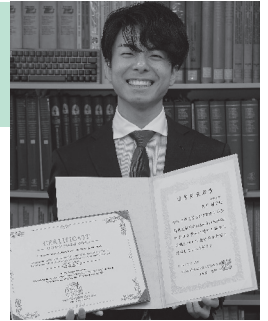
人間・社会系部門  
林(憲)研究室 修士課程2年  
高井 千春

9月に九州で開催された2025年度日本建築学会大会において、若手優秀発表賞をいただきました。発表した「オマーンの歴史的建造物に関する研究」は日頃から指導いただいている林憲吾准教授および富井治弥氏(林研究室 修士課程2年)との共同プロジェクト内で、オマーンの世界文化財修復をめぐる制度と実践の変遷を明らかにしたものです。お二人をはじめ、オマーンでの調査を支えてくださった皆様に感謝申し上げます。



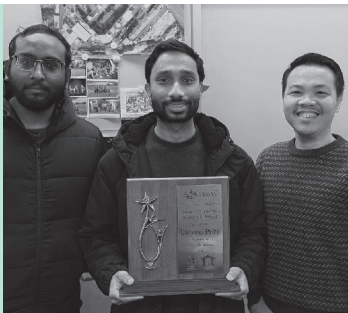
人間・社会系部門  
桑野研究室 修士課程2年  
真下 康平

この度、GeoKanto2025において優秀発表者に、EraGET2025においてBest Poster Awardに選出いただき、大変光栄に存じます。不飽和非塑性シロト質土が定体積条件下で三軸せん断されたときの力学挙動について発表いたしました。この実験には前例が極めて少ない実験です。一連の実験結果をとりまとめ、成果を形にできるよう、引き続き努力してまいります。今回の発表に際してご指導くださった桑野玲子教授に感謝申し上げます。



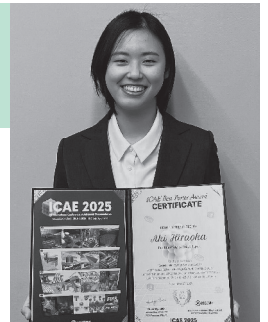
人間・社会系部門  
竹内(涉)研究室 博士課程3年  
Arliandy Pratama  
目黒研究室 博士課程3年  
Arpan Singh  
水谷研究室 博士課程3年  
Abishek Regmi

Huge thanks to our supervisor for letting us join the OHOW 2025 Symposium in India and the pre-event competition. This was an invaluable experience. We are truly grateful!



情報・エレクトロニクス系部門  
松久研究室 修士課程1年  
平岡 愛姫

ICAE2025にてポスター発表を行い、ICAE Best Poster Award Goldを受賞いたしましたこと、大変光栄に存じます。本発表では有機半導体を用いたダイオードにおける高電流密度化の手法について報告しました。ご指導を賜りました松久直司准教授ならびに松久研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。皆様の手厚い支援によりこのような素晴らしい評価をいただくことができました。今回の受賞を励みに、今後も一層研究に精進し、社会に貢献できるよう努めてまいります。



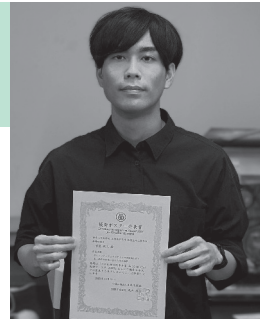
物質・環境系部門  
小倉研究室 修士課程2年  
佐久間 志帆

この度、第16回次世代天然ガスを考える若手勉強会に参加し、学生口頭発表賞を受賞いたしました。本研究では、ニューラルネットワークポテンシャルにより高速化した反応経路自動探索手法を用いて、メタン燃焼触媒であるPd導入ゼオライトの活性点構造および触媒活性の計算先導的予測に取り組みました。本受賞にあたり、日頃よりご指導いただいております小倉賢教授、安村駿作助教をはじめ、研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。



物質・環境系部門  
北條研究室 修士課程2年  
宮里 俊次

この度、第15回CSJ化学フェスタ2025においてポスター発表を行い、優秀ポスター発表賞を受賞いたしました。本発表では、サリチリデンルアミンの構造相転移と光熱応答特性における偶発効果について報告し、このような賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。本受賞に際しまして、日頃よりご指導いただいている北條博彦教授をはじめ、北條研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。



機械・生体系部門  
岡部(洋)研究室 修士課程1年  
王 垣力

この度、The 3rd China-Korea-Japan Joint Symposium on Composite Materialsにおいて、「A Grid-Pattern Spray Coating Strategy for CNT Strain Sensors: Balancing Sensitivity and Stability」と題した研究発表を行い、Best Student Paper Award (1st Prize)を受賞いたしました。本研究では、CNTひずみセンサにおける感度と安定性の両立を目的とし、グリッドパターン型スプレーコーティング手法を提案しました。本受賞は、日頃より多大なるご指導を賜りました指導教員の岡部洋二教授、ならびに研究を共に進めてくださった研究室の皆様のご支援の賜物です。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。今後は本受賞を一つの契機として、研究活動に一層真摯に取り組み、より充実した研究生活を推進してまいります。



機械・生体系部門  
北澤研究室 博士課程3年  
胡 磊

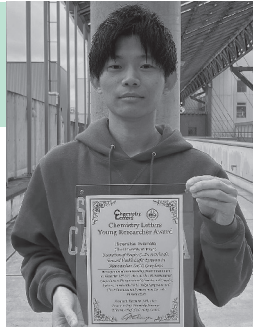
I am deeply honored to receive the Good Presentation Award at 12th East Asian Workshop for Marine Environment and Energy (EAWOMEN2) for my research, 'Experimental studies on microplastics separation from water using magnetic hydrocyclone.' As a doctoral student at the University of Tokyo dedicated to environmental remediation, this recognition is incredibly encouraging. I extend my heartfelt gratitude to my supervisor, Prof. Daisuke Kitazawa, and Dr. Jinxin Zhou, for their invaluable guidance and support throughout this project. Their insights were crucial in validating our magnetically assisted separation technique. Looking ahead, I remain committed to advancing practical solutions for microplastic pollution. I hope to further optimize this technology to contribute effectively to marine environment protection and sustainable water treatment.



# AWARDS

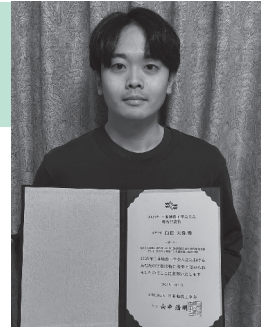
## ■受賞のことば

物質・環境系部門  
砂田研究室 博士課程2年  
岩本 秀光



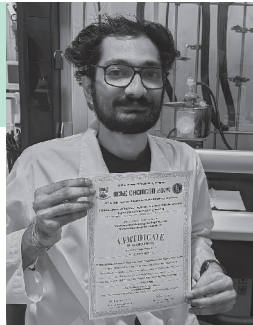
この度、5th International Symposium on Photofunctional Chemistry of Complex Systems (ISPCCS2025)にて、Chemistry Letters Young Researcher Awardを受賞いたしました。本発表では、亜鉛-カルベン上に低エネルギーな空π軌道を有する亜鉛単核錯体の構造特性、および可視光吸収・発光特性について報告しました。このような貴重な機会を設けてくださりました組織委員会の先生方に深く御礼申し上げます。また、日頃からご指導いただいている砂田祐輔教授、和田啓幹助教をはじめ、研究を支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

基礎系部門  
浅井研究室 修士課程1年  
白田 大弥



この度、2025年度日本地震工学会大会において、優秀発表賞を受賞いたしました。本発表では、損傷を受けたRC造柱梁接合部試験体を対象に行ったエポキシ樹脂による補修および載荷実験について、補修前後の耐震性能の変化に着目した分析を行い、報告いたしました。本受賞にあたり、ご指導を賜りました浅井竜也准教授、大阪工業大学 権淳日准教授、防災科学技術研究所 西嶋汰氏をはじめ、日頃より研究活動をご支援いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

物質・環境系部門  
小倉研究室 博士課程2年  
NAGAPPAN Murugappan



I am happy to receive the best paper presentation award (1st prize) for the presentation on "Bio-catalysis for Sustainability: Lipase Immobilized on Mesoporous Silica as a Catalyst Towards Biodiesel Synthesis Application" at the Indian Chemical Engineering Congress 2025 (Chemcon 2025), organized by Indian Institute of Chemical Engineers (IICChE). This is my first ever conference attendance as a PhD student. I would like to sincerely thank JICA for their support (JICA - IITH FRIENDSHIP Scholarship 2.0 / D2305365). I dedicate this and all my future awards to my sensei Prof. Ogura Masaru, and co-supervisor Dr. Yuki Nakamura for their constant support and believing in me. In future, I would like to explore further on various applications of bio-catalysis (including biosensors).

基礎系部門  
町田研究室 修士課程1年  
伊藤 美香



この度、学術変革領域研究(A)「2.5次元物質科学：社会変革に向けた物質科学のパラダイムシフト」第10回領域会議にてポスター発表を行い、若手奨励賞を受賞いたしました。本研究では $p^+$ -MoS<sub>2</sub>/h-BN/ $p^+$ -MoS<sub>2</sub>共鳴トンネル接合における負性微分抵抗を用いた高周波発振を実現しました。本受賞に関しまして、町田友樹教授、守谷頼特准教授、木下圭助教をはじめとする、研究を支えて下さったすべての皆様に心より感謝申し上げます。本研究分野の発展に貢献できるよう、今後も精進して参ります。

# INFORMATION

## ■東大駒場リサーチキャンパス公開 2026 ここで、未来に挑む

日時：6月5日(金)、6日(土) 10:00～17:00  
場所：駒場リサーチキャンパス  
お問合せ：生産技術研究所 総務課広報チーム  
koho.iis@gs.mail.u-tokyo.ac.jp



※開催が中止・延期等となる場合は、ウェブサイト (<https://komaba-oh.jp/>)にてお知らせいたします。  
※イベント等の内容については、予告なく変更する場合がございます。最新情報についてはウェブサイトをご覧ください。

### オープニングセレモニー

6月5日(金) 10:00～11:50 (9:45開場)  
生研An棟2階コンベンションホール・オンライン同時配信あり

テーマ  
未来の学びをつくる  
STEAM教育：  
創造性と科学技術が  
交差する現場から

概要  
AIが人間の知的能力を超えるほど急速に進化する中、次世代に求められる創造性や探究心をどう育むかが、社会全体の課題となっています。本講演会では、STEAM教育の実践と研究の最前線に立つ2名が登壇します。生産技術研究所の川越先生は、STEAM教育が注目される背景と、東大次世代育成オフィス(ONG)での実践を紹介。先端科学技術研究センターの森先生は、大学・学校・地域など多様な主体が共創する探究学習の意義と、大学が果たすべき役割を考察します。現場の実践とマクロな視点、2つの角度から「未来の学びをつくる」可能性を探ります。

# INFORMATION

10:00～10:20	所長挨拶	生産技術研究所 先端科学技術研究センター	所長 年吉 洋 教授 所長 杉山 正和 教授
10:20～11:05	講演 未来をデザインする力を育む ーSTEAM教育の今とこれからー	生産技術研究所	川越 至桜 教授
11:05～11:50	講演 多主体で共創する探究・STEAM教育の 可能性と発展に向けて	先端科学技術研究センター	森 晶子 准教授

## 講演会・シンポジウム

6月5日(金)

生研An棟2階コンベンションホール・オンライン同時配信あり

13:00～13:50	食品加工の蒸し・乾燥～酒造と製茶について～	生産技術研究所	白樫 了 教授
-------------	-----------------------	---------	---------

酒造で蒸米を「外硬内軟」の状態にしたり、製茶で茶葉を有効成分を保ちつつ効率よく乾燥したりするには、米や茶葉の中の水の移動を把握することが重要です。本講演では米や茶葉の中の水の動きを測定・予測する研究について紹介します。

6月6日(土)

生研An棟2階コンベンションホール・オンライン同時配信あり

11:00～11:50	宇宙を身近にするためのロケット軽量化	生産技術研究所	紙田 徹 客員教授
-------------	--------------------	---------	-----------

宇宙利用は今後の拡大が見込まれており、そこに荷物を運ぶコストを下げるには、ロケットの軽量化が常に重要課題です。この課題はロケット開発当初から研究がなされていますが、まだまだ十分とは言えません。そこで、宇宙をもっと身近なものとするために必要な軽量化という切り口で、構造軽量化に関する研究を紹介いたします。

6月6日(土)

生研An棟2階コンベンションホール・オンライン同時配信あり

14:00～14:50	宇宙から見える人と自然 ワンヘルス・ワンワールドの視点	生産技術研究所	竹内 渉 教授
-------------	--------------------------------	---------	---------

地球のどこかでゾウが森を歩き、日本の山でクマが動いている。その様子を宇宙から見られるって知っていますか？気候変動や土地の使い方の変化で、人と動物の距離はどんどん近づいています。この講演では、衛星とAIを使って「人と自然の境界線」を探る最新研究を紹介し、ワンヘルス・ワンワールドという考え方で、未来の共存を一緒に考えます。

6月5日(金)

生研An棟4階 An401・402

14:00～17:00	地域力創発デザインが地域の未来を拓く ー防災×脱炭素×地域の持続性ー 現代の三大課題であるレジリエンス×カーボンニュートラル×サステナビリティを同時に緩和、解決する地域づくりを描くための議論を行います。	生産技術研究所	加藤 孝明 研究室
-------------	---	---------	-----------

6月5日(金)

生研An棟3階大会議室・オンライン同時配信あり

15:00～17:00	一般財団法人生産技術研究奨励会講演会 生産技術研究所 池内 与志穂 教授 生産技術研究所 竹内 渉 教授 一般財団法人生産技術研究奨励会の研究助成を受けた分野横断型の研究、実践的な産学連携や国際連携、社会実装を目指した実学的な研究をテーマとした研究の取り組みを紹介いたします。	一般財団法人生産技術研究奨励会	
-------------	---	-----------------	--

6月5日(金)・6日(土)

生研E棟5階 Ew501・502

14:00～15:00	人を繋ぐエレクトロニクス講演会 人を繋ぐエレクトロニクスの最前線を、ゲスト講師と共にデモを交えながらできる限りわかりやすく紹介します。松久特任准教授の開発する皮膚に密着する電子デバイスを含め、人の生活に自然に馴染むヒューマンコンピュータインタフェースなどについて議論します。	ダイセル人を繋ぐエレクトロニクス寄付研究部門	
-------------	--	------------------------	--

6月5日(金)・6日(土)

生研C棟2階ラウンジ・オンライン同時配信あり

14:00～15:00	先進的シミュレーション技術の研究開発と社会実装 革新的シミュレーション研究センターでは、「富岳」をはじめとした、最先端のスーパーコンピュータを利用する、ものづくり、ナノスケール分子デバイス・材料設計、医療工学・都市安全の分野のシミュレーション技術の研究開発を行っています。 本イベントでは、センター教員の、シミュレーション技術の研究開発の概要や最新の応用事例等、最新の成果を紹介します。Zoom形式での参加も可能です。ご興味のある方はぜひご参加ください。 センターHP： <a href="http://www.ciss.iis.u-tokyo.ac.jp/index.php">http://www.ciss.iis.u-tokyo.ac.jp/index.php</a>	生産技術研究所 革新的シミュレーション研究センター	
-------------	--	---------------------------	--

6月6日(土)

生研As棟3階 中セミナー室4 (As311・312)

13:30～17:00	マテリアル工学専攻の説明会 マテリアル工学専攻の説明会およびマテリアル工学専攻を担当している駒場リサーチキャンパスの教員の研究紹介や研究室見学会を行います。	工学系研究科 マテリアル工学専攻	
-------------	---	------------------	--

# INFORMATION

## ナノテク・マイクロ

芦原 聡	最先端赤外レーザーで拓く光科学
石井 和之	機能性分子の開発
岩本 敏	(仮) 光の不思議に挑む
金澤 直也	電子が描く右と左のサイエンス
川勝 英樹	力と音で極微に近づく
工藤 一秋	バイオインスパイアード有機合成化学
黒山 和幸	量子ナノエレクトロニクス
小林 正治	コンピューティングを支える半導体デバイス
酒井 啓司/美谷 周二朗	液体を操れ、そして測るんだ!
高橋 琢二	ナノプロービング技術
立間 徹	ナノ材料の多彩な光機能
塚本 孝政	量子サイズ物質化学
年吉 洋/ ティクシエ 三田 アニエス	MEMS 産業応用
栃木 栄太	結晶の微細構造と力学特性
野村 政宏	ナノテクで熱を電気に
福谷 克之	表面と真空の科学
藤岡 洋	半導体低温結晶成長技術が拓く未来エレクトロニクスの世界
古川 亮	ソフトマターの非線形・非平衡現象を科学する
町田 友樹	ファンデルワールス複合原子層

## 健康・バイオ・医療

池内与志穂	体の外で神経回路をつくって脳を理解する
大島 まり	予測医療に向けてー医用画像×血流シミュレーション×AIー
金 秀炫	バイオ医療マイクロシステム
金 範俊	刺す・計る・治す
白樫 了	生体内の水とその測定技術
杉原 加織	脂質で作るバイオテクノロジー
竹内 昌治	培養肉からバイオハイブリッドマシンまで
松永 行子	毛細血管を起点としたヘルスケア
南 豪	分子機能を可視化する

## 情報・AI・ロボット

大石 岳史	3D ビジョンベースロボティクス
佐藤 洋一	人の動作を読み解く画像認識
食料生産技術研究センター	工学的アプローチによる農水産業を中心とした食料生産の効率化
菅野 裕介	ユーザー中心型のコンピュータビジョン・人工知能設計に向けて
杉浦 慎哉	次世代ワイヤレス通信の先進信号処理およびネットワーク技術
ソートン ブレア	フロンティアを身近にする海洋調査技術
竹内 渉	3D 計測と AI 対話で未来の地球を診るリモートセンシング
ディペンダブル社会情報 プラットフォーム研究センター	ディペンダブル社会情報プラットフォーム
豊田 啓介	インタースペース研究領域のご紹介
豊田 正史/合田 和生/ 吉永 直樹	ビッグデータの高度インタラクティブ処理・解析・可視化基盤
複雑社会システム研究センター	詳細時系列データから読み解く複雑社会システムの挙動
巻 俊宏	海中プラットフォームシステムの未来形
松浦 幹太	暗号と情報セキュリティ
溝口 照康	人工知能駆動型物質設計
山川 雄司	人間を超える高速ロボット

# INFORMATION

## 材料・持続型社会

梅野 宜崇	ナノ・マイクロ域の機械物理とマルチスケール解析
枝川 圭一	固体の原子配列秩序と物性
岡部 徹	未来材料：チタン・レアメタル
黒川 晴正	非鉄金属製錬の最適化
酒井 雄也	未来の建設材料～植物性コンクリートから月面コンクリートまで～
砂田 祐輔	金属を精緻に配列し機能発現
徳本 有紀	ファンデルワールス層状準結晶の科学
鳴海 大翔	溶かして固めるサイエンス
松久 直司	柔らかい電子材料で作る人に寄り添うエレクトロニクス
吉江 尚子	高性能で環境に優しいポリマー材料をつくる

## ものづくり・デザイン

今井公太郎	マルチモードな建築デザインの可能性
岡部 洋二	光と超音波による構造物の健全性診断システム
梶原 優介	表面・界面を利用した加工と計測
土屋 健介	高効率生産のための加工・組立の要素技術
新野 俊樹	新しい機能を新しい製造技術で実現
檜垣万里子／山中 俊治	檜垣・山中研究室公開
古島 剛	材料変形×先端塑性加工：医療応用から自動車軽量化まで
吉岡 勇人	ロボットで拓く未来のものづくり

## 都市・建築・交通

石澤 宰	デジタルな建築情報のアップサイクル：その価値の可視化と向上
大岡 龍三	未来の環境とエネルギーシステムのデザイン
大口 敬／平岩 洋三／ 鳥海 梓	道路交通にひそむ叡智
大原 美保	地域の災害レジリエンス向上策
加藤 孝明	地域安全システム学／地域力創発デザイン
川口 健一	多様化・複合化する災害と防災
川口 健一／武藤 宝	人と建築をつなぐ空間構造
川添 善行	街を変える装置
菊本 英紀	環境センシングと都市デザイン
岸 利治	コンクリートの物性と構造物の耐久性
清田 隆	地圏災害予測・軽減への挑戦
桑野 玲子	様々な土の顔 ー支える地盤、滑る地盤、沈む地盤ー
腰原 幹雄	森と都市の共生 ー伝統木造建築から都市木造ー
坂本 慎一	都市と建築の音環境
関本 義秀	都市における空間情報 - 街と人の科学 -
瀬崎 薫	都市センシングとユビキタスコンピューティング
脱炭素モビリティ・インフラ 戦略社会連携研究部門	走るほど、満ちる社会へ：デンソー東大ラボ
中野 公彦	モビリティにおける計測と制御
中野 公彦	人・技術・社会が調和した交通システムをデザインする
中埜 良昭／浅井 竜也	地震と津波から建物を守るためにー被害の検証と評価ー
沼田 宗純／災害対策トレー ニングセンター	災害対応工程管理システム BOSS
林 憲吾	保存の宇宙：近現代建築の引き継ぎ方
本間 裕大	未来の建築・都市をデザインするための数理技術
水谷 司	「地中レーダー」で見えない宝物を探してみよう！
目黒 公郎	少子高齢人口減少社会における今後の災害対策のあり方
森下 有	地域の知識体系

# INFORMATION

## 環境・エネルギー

荒木英一郎／海中観測実装工学研究センター	海底のわずかな変動を光ファイバでとらえる
岩船由美子	持続可能なエネルギー消費と供給を考える
荻本 和彦	エネルギーシステムインテグレーションとスマートな持続的社會
小倉 賢	元素循環型社会構築に向けた触媒システム設計
海中観測実装工学研究センター	海中観測実装工学研究センターにおける研究の展開
鹿園 直毅	固体酸化物形セルとヒートポンプの研究
シチョンシコ アンナ	エネルギー工学における多孔質構造
高宮 真／井出 倫晃	集積パワーマネジメント
長谷川洋介	熱流体工学における逆問題への挑戦
北條 博彦	コンピュータで探る分子結晶の構造と働き
八木 俊介	考えよう！蓄電池の科学
山崎 大	ゲームで学ぼう！河川流域の水循環
横田 裕輔	海中・海底のリアルタイム把握
吉川 暢宏	カーボンニュートラルを支える高圧水素タンク
芳村 圭	地球水循環のモニタリングと予測
林 昌奎	沿岸設置型振り子式波力発電装置

## 人文・社会科学 / Humanities, Social Sciences

伊藤 哲朗	我が国の自治体等において災害対応の検証が行われにくい現状の解析とその解決方策
-------	--

## 科学技術コミュニケーション・教育

松山 桃世	もしかする技術「台風制御」は何をもたらす？
川越 至桜	未来をデザインする人を育むー STEAM 教育の研究

## その他のカテゴリー

革新的シミュレーション研究センター	先進的シミュレーション技術の研究開発と社会実装
試作工場	機械工作のサンプル展示と工作機械設備の紹介
野村政宏、Nicolas CLEMENT、LIMMS/CNRS-IIS (IRL2820) 国際連携研究センター	生研の中のフランスを覗こう バイオ・ナノテク・エネルギー・センシング分野の研究活動
半場 藤弘	乱流の物理とモデリング
リサーチ・マネジメント・オフィス	東京都市大学との学術連携に基づく研究協力



東大駒場リサーチキャンパス公開 2025 の様子

# INFORMATION

## 体験型イベント・展覧会

6月5日(金)

生研図書棟1階ホール

10:00~17:00

書物を墓碑として：寄贈票にみる東大工学部卒業生たち 生産技術研究所 図書室

生研の前身、第二工学部時代の蔵書には故人を偲ぶ写真・略歴が貼付されたものがあります。

若くして故人となった卒業生たち、「この人を覚えていてください」と図書に願いを託した時代に思いを馳せてみませんか？

6月5日(金)・6日(土)

COMMAハウス

10:00~16:00

再エネ時代を支える電気自動車の充電を体験

生産技術研究所 馬場博幸研究室・今中政輝研究室

再エネの多い時間帯や電力が不足する状況に応じて電気自動車の充電を制御する仕組みを紹介します。

6月5日(金)・6日(土)

生研S棟 プレゼンテーションルーム・S-1ギャラリー

10:00~17:00

Science×Design - デザインの可能性

DLX Design Lab

生研の研究者とのコラボレーションによるプロジェクトの体験型展示を実施し、各プロジェクトの紹介ムービーを随時上映します。

6月5日(金)・6日(土)

生研C棟1階ピロティ

10:00~17:00

願いと実りのイチョウ～みんなの願いに、  
研究者が答えます～

生産技術研究所 広報室

研究者たちが思い描く「もしかする未来」と、来場者が願う「もしかする未来」が、樹木のようなオブジェ上で交錯する、参加型展示です。

6月5日(金)・6日(土)

生研C棟1階ピロティ

10:00~17:00

AIが描く「もしかする未来」にあなたから一言！

生産技術研究所 広報室

生研の研究成果をもとに、AIが描き出した「2050年の未来像」と、生研研究者のコメントを展示します。

会場では、来場者の皆さまから、「2050年の未来像」に対する自由なコメントを募集します。

6月5日(金)・6日(土)

生研B棟1階エレベーターホール・地下アトリウム

5日11:00  
6日10:00

未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開

次世代育成オフィス(ONG)

次世代育成オフィス(ONG)では、最先端科学技術を題材としたSTEAM教育活動を行っています。正門・東門受付・B棟エレベーターホールにて中学生・高校生向けのおすすめ見学研究室をまとめた「見学おすすめマップ」を配布しています。(協力：SNG [Science for the Next Generation]・「循環する科学技術」研究会)

6月5日(金)・6日(土)

地下アトリウム

5日11:00  
6日10:00

“STEAM”を体験してみよう

次世代育成オフィス(ONG)

次世代育成オフィス(ONG)と共同研究・連携している企業が体験型ブースを出展します。

6月5日(金)・6日(土)

生研D棟7階 Dw701

10:00~16:00

学生工房キャンプこまばフォー

Camp Komaba Four

学生が主体となってなんでも作れる工房です。

作品例 こどもも遊べるプラレールをつかったキット、音で操縦できるミニカー、スマホから電光掲示板にメッセージ、など全国展開のプロトタイピングジャンボリーを呼びかけています。Prototyping Jamboree 2026のお題公開中。

6月5日(金)・6日(土)

生研S棟1階 風洞ギャラリー

10:00~17:00

山中研究室アーカイブ展示

生産技術研究所 山中俊治研究室・檜垣万里子研究室

山中俊治研究室のこれまでの研究成果および作品をアーカイブ展示致します。

6月5日(金)・6日(土)

生研As棟4階 As406

10:00~17:00

人工イクラ作り体験

生産技術研究所 竹内昌治研究室

カルシウムに触れるとゲル化するアルギン酸の性質を用いて、人工イクラ作りを体験していただきます。

6月5日(金)・6日(土)

生研B棟2階 Be209

13:00~13:30

台風制御技術、どこから考える？—立場から、  
「問い」を探す

生産技術研究所 松山桃世研究室

2050年の未来技術をテーマに、問いからみんなの立場を見つけていく はなして・きいて・かく対話型ワークショップです。

## ■生研同窓会総会・パーティー開催のお知らせ

生研同窓会会員の皆さまにお知らせです。

今年の生研同窓会総会・パーティーも、例年通り、キャンパス公開に合わせて開催予定です。

詳細は追って、生研同窓会 ホームページ（“生研同窓会”で検索）に掲載するとともに、会員の皆さまには、郵送またはメールにて、別途ご案内しますので、ぜひご参集ください。2025年度修了の同窓会会員は、同窓会パーティーに無料招待します。生研同窓会は、現役・OBを問わず、生研にゆかりのある方なら、どなたでも入会が可能です。会員登録がお済みでない方は、この機会にぜひご登録ください。登録手続きは、下記QRコードからご登録いただくか、生研同窓会事務局までお問合せください。

### ●生研同窓会総会

日時：2026年6月6日（土）夕刻

場所：An棟コンベンションホール

### ●生研同窓会パーティー

日時：2026年6月6日（土）夕刻（総会終了後）

場所：An棟レストランアーベ

パーティー会費：5,000円（当日会場で申し受けます）

※昨年と金額が変わっているのでご注意ください。2025年度修了の同窓会会員は無料です。



お問い合わせ先：生研同窓会事務局（社会連携・史料室内）  
TEL 03-5452-6871  
FAX 03-5452-6746  
E-mail: reunion@iis.u-tokyo.ac.jp



東京大学生産技術研究所 同窓会 記念撮影 2025.5.31

## 「As 棟ラウンジ (Lounge As)」がオープン / Lounge As Is Now Open

本所As棟3階に「As棟ラウンジ (Lounge As)」が新たにオープンしました。集中して作業ができる個室・半個室ブースをはじめ、用途に応じて利用できるテーブル・椅子、生研に関連する書籍や雑誌を展示した書棚を備えています。予約は不要で、どなたでもご利用いただけます。自習や休憩の場として、ぜひご利用ください。

A new space, the "As Building Lounge (Lounge As)," has opened on the 3rd floor of the As Building. The lounge offers private and semi-private booths for focused work, along with tables and chairs that can be used for a variety of purposes. You'll also find bookshelves featuring books and magazines related to IIS. No reservation is required, and everyone is welcome. Feel free to stop by for studying, taking a break, or just relaxing.

### 年吉所長からのメッセージ / Message from Director General Toshiyoshi

このラウンジの開設は、生研棟の隙間スペースでオンライン会議に参加している学生さんを見かけた生研事務部の発案によるものです。オンライン講義や、人前では気が引ける話をするときにはラウンジ内に新たに作った個室ブースをご利用ください。研究室の垣根を越えた交流など、普段から賑やかに使っていただけて結構です。

The idea for this lounge came from the IIS administrative staff, who often noticed students joining online meetings in shared spaces of the IIS buildings. For online classes or conversations you might feel hesitant to have in public, please make use of the newly created private booths inside the lounge. We also hope the space will be used actively for everyday interactions, including that goes beyond individual labs. Feel free to enjoy the lounge as a lively and welcoming place.



## 学生表彰 Student Awards

本所では学生の多様な活躍を後押しするために、下記の独自プログラムを実施しています。

Below are some opportunities for students at IIS.



### UTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Award

産官学、地域、国際連携研究活動に意欲的に取り組む学生を奨励するための賞  
Award to encourage students actively pursuing collaborative research with industry, government, academia, local communities, and international partners.



### UTEC 若手海外自由展開・研鑽支援プログラム UTEC Young Researchers' Challenge Support Program

熱意に溢れた国際的な研究活動を支援する先端研と生研の学生・若手研究者のための渡航支援プログラム

Travel Award to support ambitious students and early-career researchers of RCAST and IIS in pursuing international research activities.

## 駒場リサーチキャンパス新春駅伝大会 2025

本所 弥生会主催の「駒場リサーチキャンパス新春駅伝大会2025」が、1月29日（木）に開催されました。当日は、計32チームがエントリーし、1周約700mのキャンパス内周回コースを舞台に、チームの想いをつなぐ熱戦が繰り広げられました。

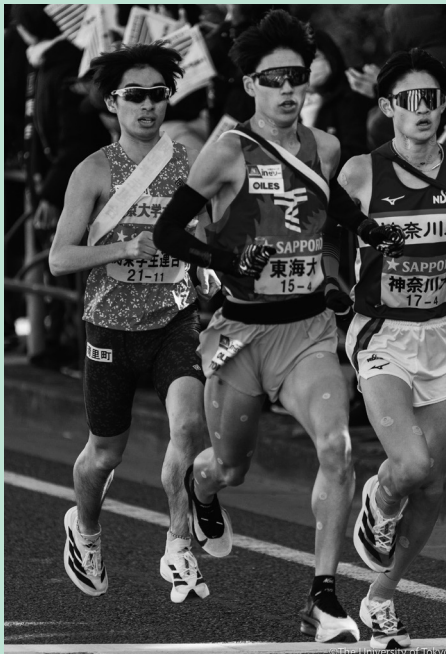
見事チーム賞に輝いたのは、1位：TeamUltrafast、2位：西増研1軍、3位：キムラボの各チーム、走者一人ひとりの力走はもちろん、タイムキーパーや誘導係の的確なサポートも光り、キャンパス全体が大声援と共に一体感に包まれました。また、弥生会からは温かい豚汁とコーンスープがふるまわれ、冬晴れのキャンパスに、走る人も応援する人も笑顔が広がる一日となりました。

翌週には、改めて表彰式が行われ、上記チーム賞の他、1周のタイム記録で個人賞1位から10位までが表彰されました。



## 本多 健亮 さん（修士課程2年）が第102回箱根駅伝 往路4区に出走

1月2日（金）に、本所 芦原 聡 研究室 修士課程2年の本多 健亮 さんが、関東学生連合チームメンバーとして第102回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）往路4区を走りました。



### 本多 健亮 選手のコメント

この度はたくさんのご声援をありがとうございました。来年は区間上位を目指してがんばります！

### 芦原 聡 教授のコメント

堂々とした走りが印象的でした。ランナーとしても、研究者・技術者としても、今後のさらなる飛躍を楽しみにしています。

撮影・写真提供：本部コミュニケーション戦略課

## International Events Held at Komaba Research Campus

1月26日（月）、International Mixerを開催しました。会場では、凧揚げやけん玉といった日本の伝統的な正月の遊びに加え、中国、韓国、ドイツなど企画学生の出身国の伝統的な遊びが紹介されました。参加者は、お雑煮や甘酒、お餅などの温かい食事を楽しみながら、国籍や研究室の枠を超えて親睦を深めました。

また、今年度の新たな試みとして、12月25日（水）には学生主催のChristmas Partyを開催しました。各研究室から多様なバックグラウンドを持つ約20名の学生が集まり、ピザなどの軽食を囲みながらアットホームな雰囲気の中で交流を楽しみました。

駒場リサーチキャンパスには多くの留学生や外国人研究者が在籍しており、こうしたイベントは、キャンパス内のコミュニティを活性化する貴重な機会となっています。

On Monday, January 26, the New Year International Mixer was held at the Komaba Research Campus. In addition to traditional Japanese games such as kite-flying and kendama, the event featured traditional games from various countries, including China, Korea, and Germany. Participants deepened their interactions across nationalities and laboratories while enjoying warm seasonal food and drinks such as ozoni (mochi soup), amazake, and mochi.

Furthermore, as a new initiative for this academic year, a student-led "Christmas Party" was held on Wednesday, December 25. Approximately 20 students from diverse research laboratories gathered to enjoy the festive occasion with light snacks such as pizza.

With many international students and researchers residing at the Komaba Research Campus, these events provide valuable opportunities to revitalize the campus community and foster cross-cultural connections.



## 一新しく駒場リサーチキャンパスへ来られた方へ

ようこそ、駒場リサーチキャンパスへ

これから駒場リサーチキャンパスで勉強、研究、生活をされる方に、

快適なキャンパスライフを送っていただけるようキャンパスの案内をいたします。

### 共通事項

各申請手続き・利用方法等は、所内用ページの各事務ページに記載があります。こちらも併せてご参照ください。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/iisonly/index.html>

### 入退館カード（IISカード）の発行

平日午前8:00-午後8:00以外の入退館に必要なカードです。申請手続きは所内用ページ(総務チーム)をご覧ください。

### 通学証明書・運賃割引証の発行

所定の手続きを行うと、大学院学生へ通学証明書・運賃割引証が発行されます。

申請手続きは所内用ページ(研究総務チーム)をご覧ください。

### 共通施設の利用

生研には、電子計算機室(Ce-207)、映像技術室(Bw-405)、試作工場(17号館)、図書室(プレハブ図書棟1階)、流体テクノ室(FF-101)、安全衛生管理室(Fw-501)の共通施設があります。その中で、電子計算機室は利用登録申請、図書室は図書館利用証の申請が必要です。各共通施設の利用時間および利用方法等については、所内用ページをご覧ください。

### 厚生施設の利用

生研には下表のような厚生施設があります。シャワー室、静養室、卓球場は総務チーム(Cw-204)でカギを借り、所定の時間帯に利用できます。また、テニスコートは、毎月第3水曜日午前10:00より翌月の予約を開始します。利用希望の方は人事・厚生チーム(Cw-202)にて予約簿へ記入の上、ご利用ください。

厚生施設	棟・部屋番号
更衣室(男子用)	EF-3e・EF-5e
更衣室(女子用)	BB-2e・BB-6e・BC-2e・BC-4e
シャワー室(男子用)	BC-3e・EF-4e(平日午前9:00~午後5:00)
シャワー室(女子用)	BB-3e・CD-4e(平日午前9:00~午後5:00)
静養室(男子用)	EF-6e(平日午前9:00~午後5:00)
静養室(女子用)	BC-6e・CD-3e(平日午前9:00~午後5:00)
給湯室(各室に自販機設置)	BC-5e・CD-2e・DE-4e・EF-2e
卓球場	Bw-B05・Bw-B06(平日午前9:00~午後8:00)
多目的トイレ	CD-5w・EF-B1w・EF-4w・An-1・As-3

### 駒場リサーチキャンパス内の食堂・購買店の営業時間

食堂・購買店	営業時間
食堂コマニ(食堂棟)	午前11:00~午後9:00 定休日:土・日・祝日
生協食堂	午前11:30~午後2:00 定休日:土・日・祝日
生協購買・書籍店	午前10:00~午後5:30 定休日:土・日・祝日
レストラン アーベ クッチーナ ナチュラルレ (An棟)	ランチ午前11:30~午後3:00(LO午後1:00) 土曜のみ要予約 ディナー午後5:30~午後9:30(LO午後7:30) 土曜のみ午後5:00~午後9:00(LO午後7:00) 全て要予約 定休日:日・祝日
ピオカフェ アーベ (An棟)	ランチ午前11:30~午後2:00 (LO午後1:00) 定休日:月・土・日・祝日

\*営業時間等については変更の可能性があるため、各店舗へお問い合わせください。

### 複写機(コピー機)の利用

各研究室へ配付している共通コピーカードで、所定のコピーコーナー(BC-3c・BC-5c・CD-4c・DE-4c・EF-4c・図書室・As棟ラウンジ・CCR棟5階)にある複写機(コピー機)を利用できます。

### 共通消耗品(封筒類)の利用

生研名入り封筒、ゴミ袋(45リットル)が、予算執行チーム(Bw-204)にありますので、ご利用ください。

### 郵便物と学内便の收受と発送

郵便物と学内便は、各部ごとに所定のメールボックス(第1部と第5部はBC-2c、第2部はCD-3c、第3部はDE-3c、第4部はEF-3c)に配付されますのでそしてお受け取りください。

郵便物の発送は、郵便業務室(Cw-204)で発送伝票に記入の上、当日発送をご希望の場合は午後3:00までにお出しください。学内便の発送も郵便業務室へお持ちください。

### 会議室・セミナー室等の利用

会議室・セミナー室は、所内用ページ(駒場会議室予約システム)から申し込みをすることで利用できます。

### ゴミの分別、実験系廃棄物・危険物の処理

C棟西側・F棟北側に一般ゴミの集積場があります。リサイクル紙・ダンボール類、ガラス類・プラスチック類、飲料缶・ペットボトル類、不燃物、可燃物に分別してお出しください。粗大ゴミ(不要機器・什器等、分別出来ないもの)は年2回の環境整備の日に所定の手続きにより廃棄しますので、一般ゴミの集積場には捨てないでください。実験廃液・使用済み薬品・廃試薬などの実験廃棄物は、危険物マニュアルに従って1号館北側に設置されている危険物貯蔵庫にてお出しください。本郷の環境安全研究センターが回収(週1回)にきています。また、劇物や毒物などの危険物および感染性廃棄物の処理は、各研究室の危険物等管理担当者にご相談ください。

### 自転車・オートバイの登録

自転車またはオートバイをご利用の方は、申請が必要です。申請手続きは所内用ページ(施設チーム)をご覧ください。

### 親睦会

生研全体の親睦会として弥生会があり、運動・文化行事を行っています。

また、各部ごとに親睦会があり、新年会・忘年会・旅行等の行事を行っています。

### B~F棟の東側避難階段について

近隣住民との協定により、非常時以外は使用しないことになっています。

### B~F棟の東側窓と東側ベランダについて

近隣住民との協定により、夜間は東側窓から光が漏れないようにロールスクリーンを降ろしてください。また、東側ベランダについても、ベランダ越しに隣地を覗き込むような行為(昼夜を問わず)や、夜間にベランダに出て壁面に人影が写ったりするような行為は一切行わないことになっていますので、これらの点や音の発生等に留意して節度ある利用を心がけてください。なお、E棟とF棟の東側ベランダは非常時の避難経路になっていますので、常時の使用はできません。

### その他

駒場リサーチキャンパスでは、構内環境整備年2回(春・秋)、および防災訓練年1回(秋)が予定されています。詳しくは所内用ページをご覧ください。

## — Newcomers to IIS —

Welcome to Komaba Research Campus.

This guide provides helpful information for those studying or undertaking research at IIS.

### General Information

Application procedures / usage procedures are provided on each administrative page of the IIS website:

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/iisonly/index.html>

### IIS Card (Key Card to Enter the Buildings)

It is a card necessary for entry and exit except 8:00am to 8:00pm on weekdays. For more information, please visit the IIS website of the General Affairs Section.

### Commuter Certificate and Student Travel Discount Certificate

Graduate students who need a commuter certificate or a student travel discount certificate can obtain them from the Academic Affairs Section. For more details, please visit the Academic Affairs Section's website.

### Common Facilities

The Institute has common facilities such as Computer Center (Ce-207), Image Technology Room (Bw-405), Central Workshop (Building No.17), Library (1st floor of prefabricated building), Cryogenic Service Room (FF-101), and Environmental Safety Center (Fw-501). An application for registration is required for the Computer Center, and an application for a library card is required for the Library. For more information, please visit each pages of the IIS website.

### Recreational Facilities

The Institute has the recreational facilities listed in the table below. To use the shower room, the resting room, and the table tennis room during the specified time, borrow the key to enter the room from the General Affairs Section (Cw-204).

Reservations for the tennis court begin at 10:00am on the third Wednesday of each month for the following month. Please fill in the reservation book and use it.

Facility	Building (Block) , Room number
Locker room (for men)	EF-3e · EF-5e
Locker room (for women)	BB-2e · BB-6e · BC-2e · BC-4e
Shower room (for men)	BC-3e · EF-4e (Weekday 9:00am~5:00pm)
Shower room (for women)	BB-3e · CD-4e (Weekday 9:00am~5:00pm)
Resting room (for men)	EF-6e (Weekday 9:00am~5:00pm)
Resting room (for women)	BC-6e · CD-3e (Weekday 8:30am~5:00pm)
Kettle room equipped with a vending machine	BC-5e · CD-2e · DE-4e · EF-2e
Table tennis room	Bw-B05 · Bw-B06 (Weekday 9:00am~8:00pm)
Accessible toilet	CD-5w · EF-B1w · EF-4w · An-1 · As-3

### Opening Hours of Cafeteria and Store

Cafeteria and Store	Opening hours
KOMANI (Restaurant & Meeting Room)	11:00am~9:00pm Closed on Saturdays, Sundays and public holidays
Co-op cafeteria	11:30am~2:00pm Closed on Saturdays, Sundays and public holidays
Co-op store	10:00am~5:30pm Closed on Saturdays, Sundays and public holidays
ape cucina naturale (An block)	Lunch: 11:30am~3:00pm (LO 1:00pm) Reservation required on Saturdays only Dinner:5:30pm~9:30pm (LO 7:30pm) Saturdays:5:00pm-9:00pm (LO 7:00pm) Reservation required Closed on Sundays and public holidays
Bio Café ape (An block)	Lunch: 11:30am~2:00pm (LO 1:00pm) Closed on Mondays, Saturdays, Sundays and public holidays

\* Business hours are subject to change. Please contact each store.

### Copying Machine

A common copy card is distributed to each research laboratory to use copying machines at the specified copying corners (BC-3c, BC5c, CD-4c, DE-4c, EF-4c, library, Lounge As and 5th floor of CCR building).

### Consumables (Envelopes, etc.)

Envelopes with the Institute's name printed on them and garbage bags (45 ℓ) are available from the Finance Section (Bw-204).

### Receiving and Sending Postal Mail and Intramural Mail

Incoming postal mail and intramural mail are dropped in the mailbox designated by each department (BC-2c for Dept. 1 and 5, CD-3c for Dept. 2, DE-3c for Dept. 3 and EF-3c for Dept. 4).

To send mails (including Air Mail), fill in a sending slip and hand them to the staff at the Mail Service Room (Cw-204). For same-day shipping, the deadline is 3:00pm.

### Conference and Seminar Room Reservations

To use the conference/seminar rooms, please make a reservation through the Komaba Room Reservation System on the IIS website.

### Sorted Garbage Collection and Disposal of Experiment-related Waste and Hazardous Materials

There are two temporary storages of garbage on the west of Building C and the north of Building F. Separate the garbage into recyclable papers, cardboard, glasses, plastics, beverage cans, PET bottles, combustible, and non-combustible. Large-sized wastes including electronics and furniture can not be disposed at the garbage storages in the campus. These wastes are collected twice a year on the campus clean-up day. Bring experimental wastes such as waste liquids, used chemicals, and waste reagents to the storehouse of hazardous materials located on the north of Building 1 in accordance with the regulations in the Manual for Hazardous Materials. The Environmental Science Center in Hongo Campus collects them weekly. If you need to dispose of hazardous substances such as deleterious substances, poisonous substances, and infectious waste, contact the person in charge of managing hazardous materials at each research laboratory.

### Registering to Park Bicycle and Motorcycle

Those who use bicycles or motorcycles need to apply.

For more details, please visit the Facilities Team's website.

### Social Gatherings

"Yayoikai" is a get-together involving the whole institute and holds sporting and cultural events. In addition, each department organizes various get-togethers including New Year's party, year-end party, trips, and other events.

### Emergency Outdoor Stairs on the East of Building Be through Fe

The outdoor stairs on the east of building Be through Fe shall be used only for emergency cases, based on the agreement made with the nearby residents.

### Windows and Porches on the East of Building Be through Fe

The rolling-screens attached to the windows on the east of building Be through Fe shall be closed during night-time to shade the room lights. On the porches there, we shall refrain from any activity that would make the nearby residents feel that they are being watched. It would include looking down from the porch, making human shades on the wall at night, and talking loudly. Note that the porch on the east of building Ee and Fe shall be used as an evacuation route in case of emergency, and thus can not be used otherwise.

### Others

Campus environmental activities are held at the Komaba II Research Campus twice a year (spring and autumn) and a disaster drill once a year (autumn).

For more information, please visit the IIS website.

## Living, Learning, and Growing in a Diverse Community at IIS

Jingyi Gao

Doctoral student, Naomichi Hatano Lab.  
Department of Fundamental Engineering

I arrived at the University of Tokyo in 2021, or perhaps more accurately, I almost arrived. Due to the pandemic, I spent nearly half a year attending meetings from my room in China, imagining Japan through a computer screen. When Japan finally reopened its borders, I entered the country just in time for another surprise: a seven-day quarantine that was suddenly lifted on the fifth day. Overnight, my quarantine turned into my very first vacation in Japan—a rather unconventional but unforgettable welcome.

Some of my “first times” in Japan were equally unexpected. My first 飲み会 was not held in a cozy 居酒屋, but on Zoom. In China, laboratory gatherings are usually formal research meetings, so drinking with professors and lab mates online was both strange and fascinating. It felt like discovering a hidden side of academic life.

Hatano Laboratory is also one of the most international environments I have ever experienced. So international that English became the default language. As a result, my Japanese did not improve as much as my mother had hoped—and she frequently reminded me of that. Coming from a small city in China, I had never before met people from so

many different countries and cultural backgrounds. At an international conference, POS-RST 2025, I even confused “Austria” with “Australia”, which led to a memorable moment of laughter. Despite our differences, everyone I met was incredibly kind, and each day felt new, challenging, and joyful.

Academically, these five years at IIS have been far richer than I ever imagined. I was fortunate to receive a private foundation scholarship in M2, which introduced me to diverse cultural exchanges. Before entering my doctoral course, I was accepted by the WINGS-QSTEP by my research in quantum thermal machines. In particular, my study of non-equilibrium dynamics at Liouvillian exceptional points was warmly received by the community and played an important role in my being awarded the JSPS DC2 Fellowship—an outcome that was both surprising and deeply encouraging to me.

Looking back, my time at IIS has been a chapter filled with kindness, curiosity, and growth. Wherever life leads me next, these years will remain an irreplaceable and joyful memory, and I will continue forward carrying both the generosity I received here and my own passion for research.



online 飲み会・歓迎会



Poster Award of POS-RST 2025  
Prof. Obuse, Prof. Hatano and me (from right to left)

## メタ光学：人工構造でひらく、新しい光物理と光機能

基礎系部門 准教授 森竹 勇斗



子供のころ、歩道の色の濃いタイルだけを踏むように、ピョンピョンと飛び移りながらよく歩いていました。大人になると、歩道に模様があることすら気づかず、速足で歩くことが増えた気がします。なぜ大きくなると、濃い色のタイルをピョンピョンしなくなるのか。様々な視点からこの問いに答えられそうですが、私の専門に引きつけてお答えすれば、「スケールが変わったから」です。

人々は古くからレンズやミラーで光を操ってきました。これは、身の回りの物体が光の波長（可視光の波長はおおよそ400～750ナノメートル）より十分大きく、光を「光線」として扱えるためです。一方、物質は原子から構成されており、その意味で不均一ですが、原子の大きさは0.1ナノメートル程度と、光の波長に比べて非常に小さいため、光はその不均一性ほとんど感じず、特定の屈折率をもつ均一な材料として扱えます。

一方で、近年の微細加工技術の進展により、光の波長と同じくらいのサイズで多様な人工構造を作れるようになりました。このサイズになると光の「波」としての性質が強くなり、従来のレンズやミラーではできなかった光制御が可能になります。このような構造は、メタサーフェス（メタマテリアル）やフォトニック結晶と呼ばれ、世界中で盛んに研究開発が行われています。光にとって「歩幅に近い間隔」でタイルを並べてあげると、光はひとりでの遊びをはじめ、豊かな振る舞いを示すのです。こ

うした人工構造で新しい光制御を目指す研究分野が「メタ光学」です。（図1）

メタ光学から生まれた技術の代表例である「メタレンズ」は、薄く平坦で軽量な多機能レンズとして実用化が進んでおり、近い将来我々の生活の一部になるでしょう。このようにメタ光学は、応用・産業と密接な一方で、私はメタサーフェス・フォトニック結晶を「新しい光現象・光物理を探索するためのプラットフォーム」として用いる研究を進めています。例えば、図2(a)はトポロジカル絶縁体と呼ばれる新しい量子物質のアイデアを光系で実現した構造です。このように、もともとは光学以外の世界で発展した研究を光系に援用することで新しい光機能を創出するだけでなく、光ならではの現象に展開することで、光そのものの極限的な性質に迫りたいと考えています。

さらに近年は、最先端の電子材料・量子材料との融合による新しい光制御の創出にも取り組んでいます。例えば、GSTと呼ばれる相変化材料や、グラフェン（2次元薄膜材料）を用いた研究を行っています。図2の構造では、特殊な材料を特定の形状に加工して載せることによって、新しい光物理・光機能を実現しています。今後も、さらに新しい材料を取り入れることで、従来の光系だけでは成しえなかった光技術を開拓していきます。

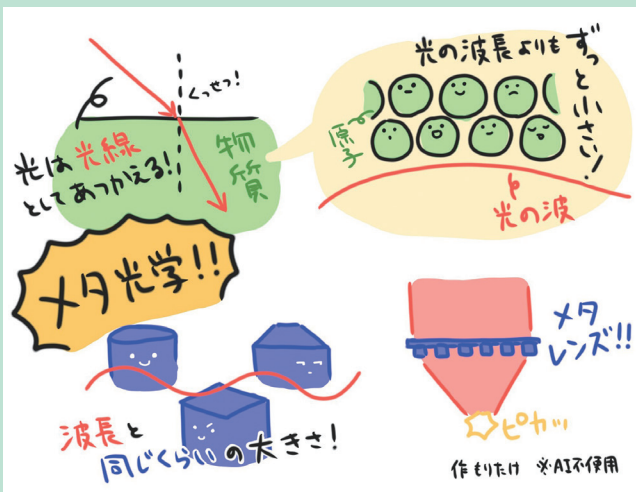


図1 波長と同程度の大きさをもつ人工構造による「メタ光学」

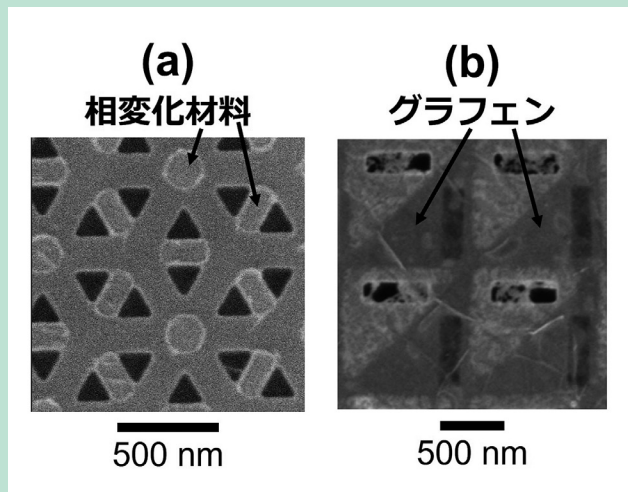


図2 作製したナノフォトニック構造の電子顕微鏡写真：(a) 相変化材料 (GST)、(b) グラフェンを選択的に配置したもの

## ■編集後記■

今年度末までのご退職にあたりW表紙を飾っていただいた中笠良昭先生と酒井啓司先生は、共通して生研の独特かつ素晴らしい特徴について語られました。今号は4月号ということで、新たに生研にいらっしゃった方には初めて手に取られる「生研ニュース」かもしれません。ぜひ

ひ中身をご覧になり、そのような特徴を感じるとともに、今後のご活動や連携を広げるきっかけにいただければ幸いです（本所での新生活に役立つCAMPUS GUIDEもご活用ください！）。

（浅井 竜也）

■東京大学 生産技術研究所 広報室  
〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1  
(03) 5452-6017 内線 56018、56864

## ■編集スタッフ

佐藤 洋一・林 憲吾・松山 桃世・浅井 竜也  
巻 俊宏・豊田 正史・塚本 孝政・楠井 美緒  
岡田麻記子・山田 雅之・松田さつき・米山 浩  
木村真貴子

E-mail:iis-news@iis.u-tokyo.ac.jp

生研ホームページ

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>

生研ニュースはweb上でもご覧

いただけます

[https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/about/publication/seiken\\_news/](https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/about/publication/seiken_news/)



# 生研 ニュース

IIS NEWS  
No.209  
2026.4



●基礎系部門  
教授

酒井 啓司

IIS  
TODAY

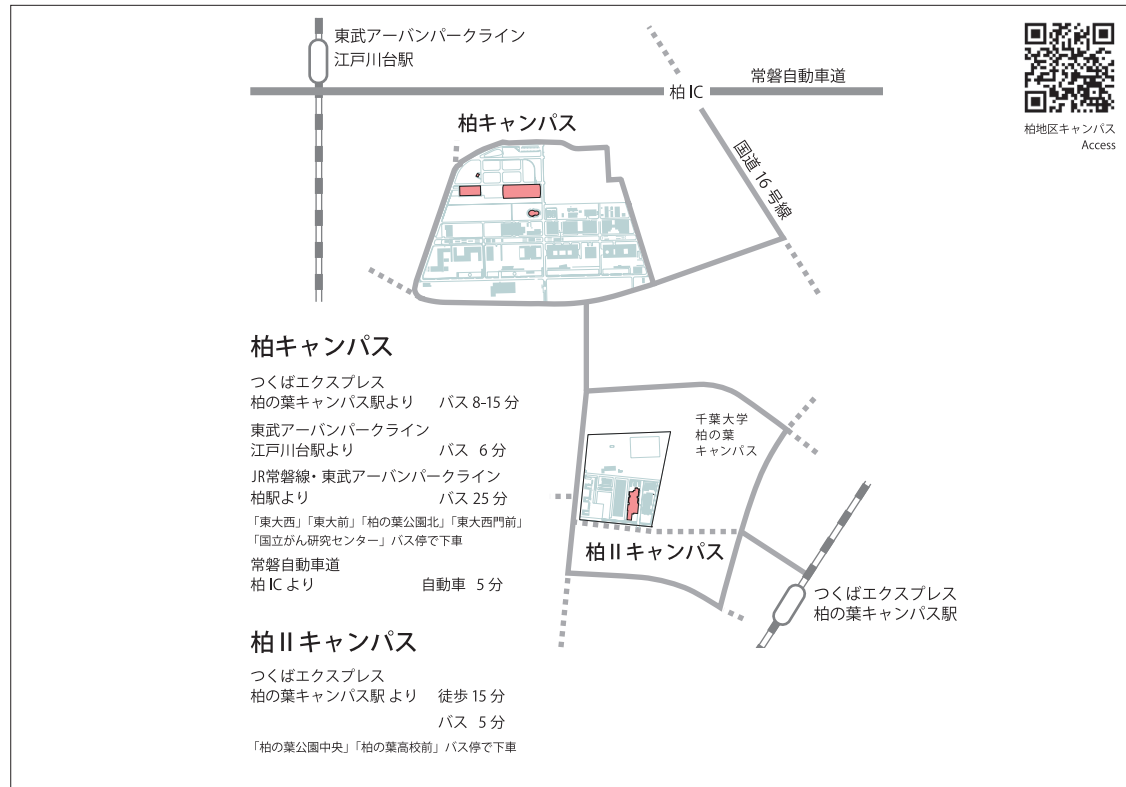
今回、開発された物性測定装置と共に表紙を飾っていただくのは、2027年3月に定年退職を迎えられる基礎系部門の酒井啓司教授です。酒井先生は1989年に生産技術研究所の助手に着任され、初めの頃はレーザー測定などのご研究をされていましたが、後にレオロジーといった応用物理学の研究に移行し、主にソフトマテリアルの物性（粘性等）を測定する装置の開発を手掛けてこられました。計測対象は、インク、石油食品、土など様々。商品化された装置では、電磁力を用いることで、計測対象物を周囲から縁を切った状態で遠心させられるため、高圧力下などの特殊環境や、バイオハザードの恐れがある血液などの危険物質でも、非常に廉価で計測することが可能になりました。2000年頃までのご研究成果に基づいて特許を取得して商品化し、売れ行きは大変好調だそうです。

そのようなご自身のご研究に加え、生産技術研究奨励会の運営にも長く携わり、産学連携の推進・振興に多大なご貢献をされてきました。本所は第二工学部時代から非常にユニークな場所で、様々な連携が行われる一方で個々の研究も尖っており、さらに自由な雰囲気があるため研究内容の変更もしやすかったそうです。本所の歴史や経緯について何でもご存じで、楽しいエピソードをたくさんお話くださった酒井先生。ご退職にあたり本所への一言をお願いすると、「まだまだやり残したことがあるのでこれからもよろしく願います。大儲けして寄付します！言うのはタダだからね！」と、最後まで生研愛に溢れたお言葉をいただきました。

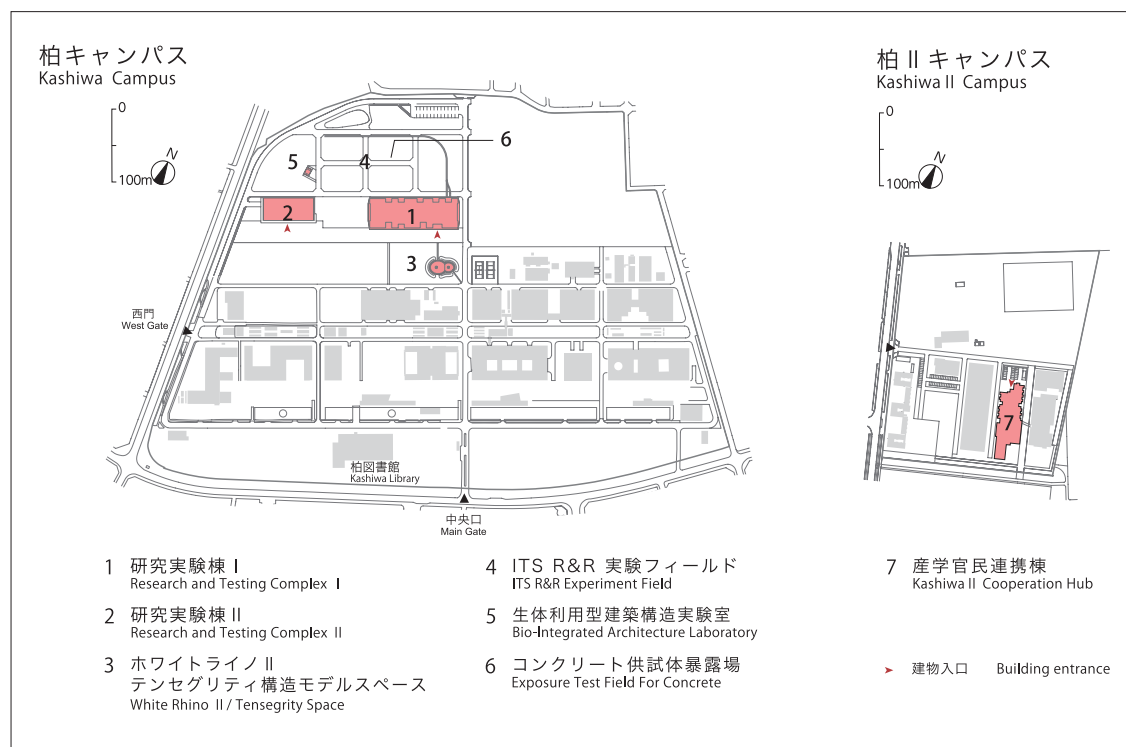
(広報室 浅井 竜也)

# CAMPUS MAP

## ■柏地区キャンパスへの案内図



## ■キャンパス内配置図



# TRANSPORTATION NETWORK



### ■駒場リサーチキャンパス

小田急線/東京メトロ千代田線  
東北沢駅(小田急線各停のみ)より徒歩8分  
代々木上原駅より徒歩12分

Odakyu Line/Tokyo Metro-Chiyoda Line  
8-min walk from Higashi-Kitazawa Station  
12-min walk from Yoyogi Uehara Station

### ■京王井の頭線(いずれも各停のみ)

駒場東大前駅より徒歩10分  
池ノ上駅より徒歩10分

Keio Inokashira Line  
10-min walk from Komaba Todaimae Station  
10-min walk from Ikenoue Station

### ■柏キャンパス

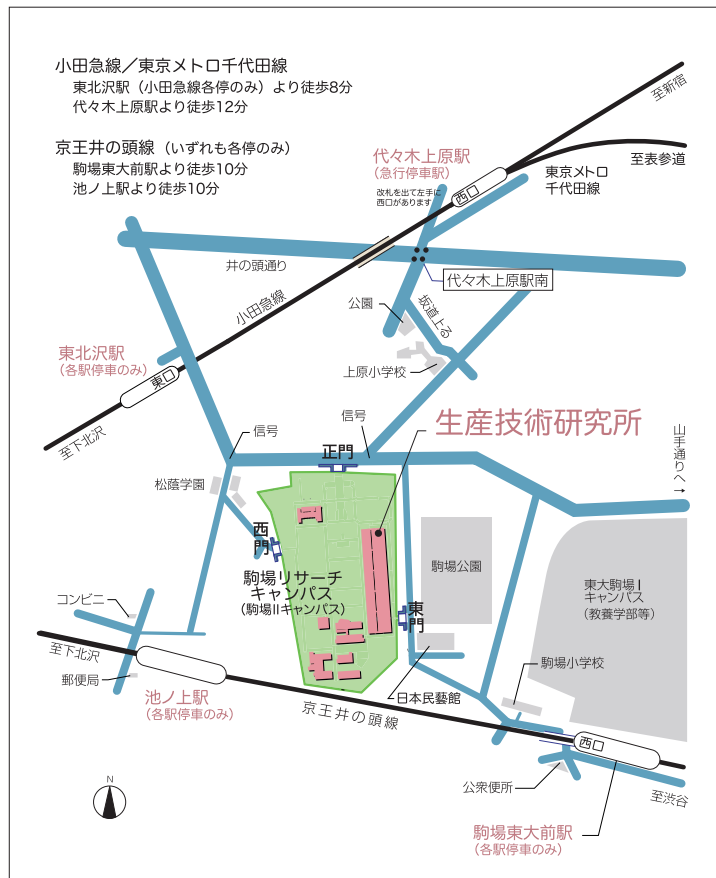
つくばエクスプレス  
柏の葉キャンパス駅よりバス8-15分  
Tsukuba Express Line  
8-15-min by bus from Kashiwanoha-campus Station

### ■柏IIキャンパス

つくばエクスプレス  
柏の葉キャンパス駅よりバス5分、または徒歩15分  
Tsukuba Express Line  
5-min by bus or 15-min walk from Kashiwanoha-campus Station

# CAMPUS MAP

## ■駒場リサーチキャンパスへの案内図



今号では各キャンパスへの案内図、キャンパス内配置図および総合研究実験棟 (An棟・As棟)、研究棟 (B棟～F棟) 内配置図を掲載しています。

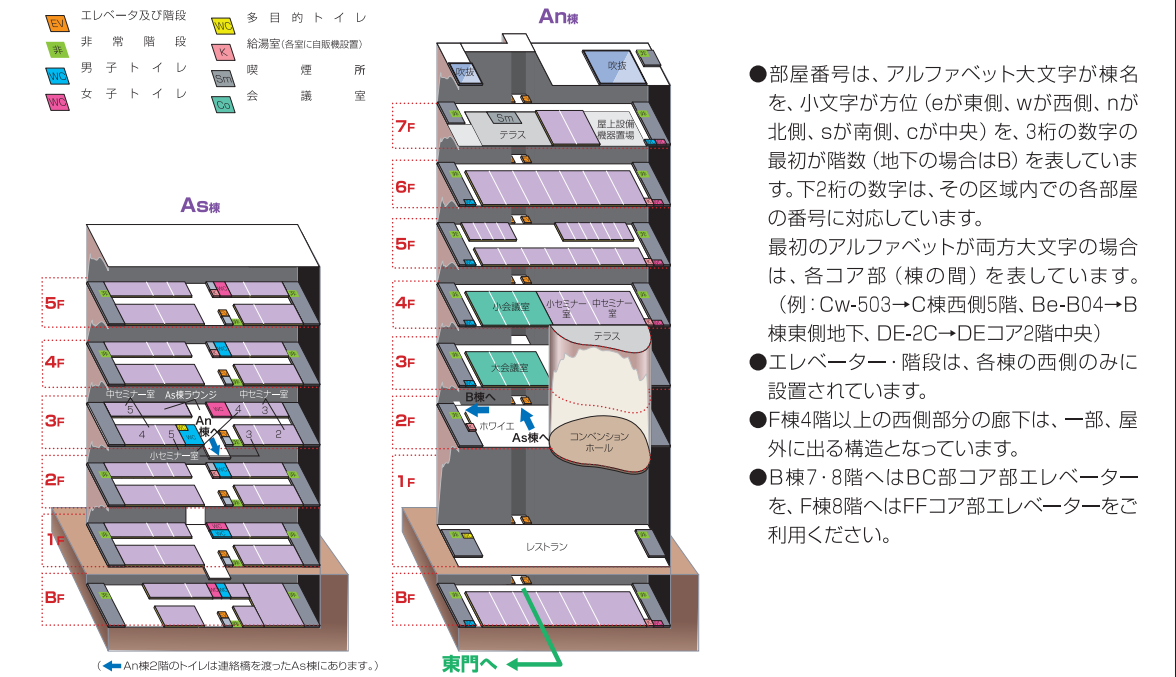
- 自動車・オートバイで入構する場合は、正門からのみの入構となります。
- 正門 (大扉) は朝7時30分に開門、夜9時30分に閉門となっています。(土日・祝日閉門)  
なお、守衛所側小扉は24時間開門しています。
- 東門・西門については、平日朝8時～夜8時までは開放で、その他の時間帯はカードでの入構となっています。(日・祝日閉門)

## ■キャンパス内配置図



- An棟、As棟、研究棟 (B～F棟) の入口は、カードキーシステムで管理されており、平日の朝8時～夜8時以外は施錠されていますので、カードキーで解錠して入ることになります。施錠の時間帯に来所の場合は、各棟入口に備え付けの内線電話をご利用ください。
- キャンパス内は物品搬入などの特別な場合を除いて、自動車・オートバイの通行は禁止です。自動車は、東側およびAs棟南側の駐車場に駐車してください。自転車は、ピロティの駐輪台を使用してください。オートバイは、正門東側のオートバイ専用駐輪場に駐車してください。ピロティの駐輪スペースに置くことはできません。また、ピロティ内の自転車走行は禁止です。

## ■総合研究実験棟 (An棟、As棟)、研究棟 (B棟～F棟) 内配置図



- 部屋番号は、アルファベット大文字が棟名を、小文字が方位 (eが東側、wが西側、nが北側、sが南側、cが中央) を、3桁の数字の最初が階数 (地下の場合はB) を表しています。下2桁の数字は、その区域内での各部屋の番号に対応しています。最初のアルファベットが両方大文字の場合は、各コア部 (棟の間) を表しています。(例: Cw-503→C棟西側5階、Be-B04→B棟東側地下、DE-2C→DEコア2階中央)
- エレベーター・階段は、各棟の西側のみに設置されています。
- F棟4階以上の西側部分の廊下は、一部、屋外に出る構造となっています。
- B棟7・8階へはBCコア部エレベーターを、F棟8階へはFFコア部エレベーターをご利用ください。

